

(公社) 栃木県サッカー協会事務局

〒320-0857 宇都宮市鶴田2-2-10

鈴運メンテック株ビル2F

TEL 028-688-8411 / FAX 028-688-8400

URL <http://www.tfa.or.jp/>



## contents

- ② 栃木トヨタカップ第19回県サッカー選手権大会 / 第94回天竺杯全日本サッカー選手権大会
- ③ 第69回国民体育大会関東ブロック大会サッカー成年男子選抜を振り返って
- ④ 第69回国民体育大会関東ブロック大会サッカー競技開催 (少年男子)
- ⑤ 第69回国民体育大会関東ブロック大会サッカー成年女子大会選抜を振り返って
- ⑥ U-17百年博多クラブの専攻を改めて / 栃木県知事事務連絡及び第19回栃木県サッカー選手権大会を終えて
- ⑦ 平成26年度春季栃木県自治体職員サッカー選手権大会開催及び第43回全国自治体職員サッカー選手権大会北関東予選会出場について
- ⑧ 平成26年度栃木県大学サッカー選手権大会優勝に際して / 1. 高校選抜より
- ⑨ 2. 各大会県予選結果 (男子) / 関東大会に参加して
- ⑩ インターハイに参加して / 3. 平成26年度栃木県高校サッカー関係行事日程 (予定)
- ⑪ 関東大会に参加して / 関東大会を終えて...
- ⑫ 第4種委員会 高瀬利明委員長あいさつ
- ⑬ 第38回全日本少年サッカー大会栃木県大会
- ⑭ 第38回全日本少年サッカー大会 / 第4回北関東U-12サッカー大会
- ⑮ 第36回関東少年サッカー大会 / 第38回関東少年サッカー大会
- ⑯ 第13回全国シニア (50歳以上) サッカー大会関東地区予選会 / 第2回全国シニア (40歳以上) サッカー大会関東地区予選会
- ⑰ 第9回関東シニア選手権大会 (Over60) 日程表・対戦成績表
- ⑱ ねんりんピック栃木2014 サッカー交流会結果表
- ⑲ サッカー交流会結果表
- ⑳ 継続することの大切さ～栗野地区・小山高専の取組み～
- ㉑ 第1回全日本ユース (U-18大会) ラ・ペロタ・サラ関東へ / ラソスが10年特別表彰
- ㉒ 本県女子選抜活動中 / 第19回全日本女子ユース (U-15) 栃木Sレディーズ全国3位
- ㉓ NPO法人、イデアSCが女子普及事業 真岡で「でしこひろば」
- ㉔ (公社) 栃木県サッカー協会審判委員会 審判委員長 鈴木昌明あいさつ / 十河正徳さんを偲ぶ
- ㉕ 1 マッチNO.1 ブラジルvsクロアチア
- ㉖ ～平成26年第2回関東女子審判研修会に参加して～
- ㉗ 栃木県審判トレーニングセンターの概要
- ㉘ 第69回国民体育大会関東ブロック大会サッカー競技開催
- ㉙ 栃木県選抜U-15ブラジル遠征2014
- ㉚ 平成26年度 (公社) 栃木県サッカー協会賛助会員ご芳名



●写真はキッズ委員会 ①キッズフェスティバル ②親子でキッズピクニック ③キッズアカデミー ④高校生との交流

# 第69回 国民体育大会

## 関東ブロック大会

## サッカー競技開催

## 栃木トヨタカップ 第19回県サッカー選手権大会

栃木トヨタカップ第19回サッカー選手権大会が、第94回天皇杯の出場権を懸け、1回戦6月1日、準決勝6月8日、決勝6月29日の日程で、県グリーンスタジアムで開催された。

1回戦は、白鷗大学（第1種・大学代表）が3-0で揚茜クラブ（第1種・社会人代表）に快勝し、準決勝に駒を進めた。

試合は、白鷗大学が序盤から試合の主導権を握り、前半35分、MF山中俊輝のスループスを受けたMF福沢邦人が先制ゴールを決めた。後半に入ると11分に山中、13分に途中出場のMF塩田貴大が追加点を奪い、11年ぶり3度目の出場ですべて1回戦を突破した。

揚茜クラブは白鷗大学の運動量に苦戦し、要所での決定力も欠いた。

### 白鷗大学

3（1-0，2-0）0

### 揚茜クラブ

準決勝はヴェルフェたかはら那須（関東リーグ）が5-0で白鷗大学に圧勝し、6年連続の決勝進出を決めた。

ヴェルフェは前半6分、FW林慶之のゴールで先制。後半もMF高橋祐樹がループシュートを決めるなどして突き放した。

白鷗大学は前半に決定機をつくったが、後半はヴェルフェに主導権を握られ、一方的な展開を許した。

### ヴェルフェたかはら那須

5（2-0，3-0）0

### 白鷗大学

決勝は5年連続となる対戦で、栃木ウーヴァFC（JFL）が1-0でヴェルフェたかはら那須を下し、2年連続6度目の優勝を飾った。

栃木ウーヴァFCは前半、ヴェルフェに主導権を握

られる苦しい展開となったが、前半40分にMF平泉衝のゴールで均衡を破り、後半もこの1点を守り切った。

優勝した栃木ウーヴァFCは7月5日の第94回天皇杯全日本サッカー選手権大会1回戦、栃木市総合運動公園陸上競技場で兵庫県代表の関西学院大学と対戦。

### 栃木ウーヴァFC

1（1-0，0-0）0

### ヴェルフェたかはら那須



## 第94回天皇杯 全日本サッカー選手権大会

第94回天皇杯全日本サッカー選手権大会は、7月5日に開幕し、各地で1回戦を行った。

本県代表の栃木ウーヴァFC（JFL）は兵庫県代表の関西学院大と栃木市総合運動公園陸上競技場で対戦し、1-2のスコアで1回戦敗退。

栃木ウーヴァFCは開始早々にカウンターから先

制点を許した。その後はサイドからの攻撃を積極的に仕掛け、何度か惜しいシーンをつくったが得点できず、逆に前半終了間際に2点目となるミドルシュートを決められた。

2点を追うウーヴァは後半から登場したFW中川貴晴が後半26分、ゴール前のこぼれ球を右足で決め1点差に詰め寄ったが、あと一歩及ばなかった。

### 関学大（兵庫）

2（2-0, 0-1）1

### 栃木ウーヴァ

7月12日は各地で2回戦が開催された。栃木SCは県グリーンスタジアムで同じJ2のザスパクサツ群馬と対戦、前後半さらに延長0-0のままPK戦に突入、PK戦に0-3で敗れ、2大会連続の3回戦進出はならなかった。

前後半通して、両チームとも決め手を欠き、90分で決着はつかず延長戦に突入した。栃木SCの決定的なシーンは延長前半9分、MF広瀬浩二がシュートを放つもわずかにゴール左へ。延長後半は再三、決定的なシーンを迎えたが、決めきれなかった。PK戦は後攻の栃木SCが3本連続で外し、ザスパクサツ群馬が勝利した。

### ザスパクサツ群馬（J2）

0（0-0, 0-0, 延長, 0-0, 0-0）0

（PK3-0）

### 栃木SC（J2）



## 第69回国民体育大会関東ブロック大会サッカー 成年男子運営を振り返って

1種委員長 鈴木 篤

国体関東ブロック大会運営を振り返り、ご報告申し上げます。

日頃より当協会の活動に対し、ご理解・ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

今年度は8月22日（金）が前日練習、23日（土）・24日（日）が試合というスケジュールで実施されました。本大会は体育協会・県協会・1種委員会（社会人連盟）が連携しての運営が基本となり普段行っている状況とは異なる大会運営となりました。

昨年の役員改選で社会人連盟は役員中心メンバーが大幅な若返りを果たしました。新体制になってからも県内大会や関東大会の運営は行ってきましたが、今回の関東ブロック大会は多会場・3日間という新体制での初めての大きな大会ということになりました。

事前準備段階では県協会で作成していただいたマニュアルをもとに準備を進めましたが、見通しの甘さから直前になって打ち合わせ不足、人員不足などの不安がある状況で大会を迎えることとなってしまいました。

大会初日は2会場（栃木県総合運動公園サッカー場および宇都宮市河内総合運動公園陸上競技場）に分かれての運営となりました。これまで各種担当でリーダー的な役割をしていた人員を分散する形となり、他大会ではスムーズに出来ていた会場設営や試合運営もちぐはぐな状況となってしまいました。特にパソコンを使用しての公式記録作成においては不手際が目立ち、試合終了後から発行するまでに時間を要してしまいました。今回の大会では新しい記録方式が導入されました。ただし事前の県内大会で新方式に慣れるために運用をしており充分経験値を上げる機会はありませんでした。にもかかわらず担当者割り当ての不備・予行演習不足から当日になってチーム関係者・報道関係者・協会関係者にご迷惑をかける結果となってしまいました。

大会2日目は会場もひとつとなり人員分散の解消、また前日の不備を修正したことで運営の質を向上することができました。

幸いにして試合はチーム関係者・審判員の協力もあり無事に終了することができました。大会参加者に心よりお礼申し上げます。

今回の関東ブロック大会は事前の準備をしっかりと行うことが良い運営につながることを改めて考えさせられる大会となりました。運営ノウハウは選手たちがトレーニングや試合で上手になっていくように蓄積・経験があって身に付けることが必要となり、特に社会人連盟所属の役員は大会運営に全員参加を基本とし『チーム社会人』として成長していくべきだと痛感いたしました。そして今回の大会が平成34年に本県で開催される本大会の成功へのファーストステップとなるように反省点をしっかりと受け止め、改善を進め今後の大会運営や理事会を通して質の向上を目指していきます。特に国体本大会は体育協会・県協会やボランティアとの連携・協力が重要となり、かつ実際に現場で運営する社会人連盟のレベルアップが必要不可欠です。積極的に事業に関わり、また新たな事業を提案して実行することで栃木大会を万全の態勢で迎えらるるよう準備して行きたいと思えます。

おわりに本大会の開催にあたりご協力いただきました体育協会、サッカー協会、審判員、県1部リーグ所属チーム、真岡高校サッカー部、白楊高校サッカー部、連盟役員ならびに施設関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます報告とさせていただきます。



## 第69回国民体育大会 関東ブロック大会 サッカー競技開催（少年男子）

第69回長崎国体への出場権をかけ、本県で関東ブロック大会が開催され、少年男子は、8月16日（土）、17日（日）に本県の栃木SC宇都宮フィールドと鹿沼市サンエコ自然の森総合公園サッカー場で、関東各都県8チームが、本大会出場を目指し、激闘を繰り広げた。

運営には、県協会、高体連サッカー専門部の役員および白鷗大足利高校と宇都宮高校サッカー部の生徒の補助員で当たった。

第一日目の8月16日は、栃木SC宇都宮フィールドと鹿沼市サンエコ自然の森総合公園サッカー場でそれぞれ2試合ずつ行われた。

栃木SC宇都宮フィールドでは、第一試合（代表決定戦）群馬県対山梨県の試合が行われ、群馬県が前半に挙げた1点を守りきり1対0で勝利し、代表となった。

第二試合は代表決定戦への切符を掛け、地元栃木県と前年国体本大会優勝の東京都が対戦した。

前半に栃木県が先制し、後半に東京都が追いつく展開になり、同点のまま延長戦へ、そこでも1対1のまま決着がつかず、規定によりPK方式で次回進出チームを決めることになった。PK方式は、5-4で栃木が勝利し、次の日の代表決定戦へ駒を進めた。

鹿沼市サンエコ自然の森総合公園サッカー場では、第一試合（代表決定戦）神奈川県対埼玉県の試合が行われ、神奈川県が1対0で埼玉県を下し、代表となった。

第二試合は代表決定戦への切符を掛け、千葉県と茨城県が対戦し、1対0で千葉県が埼玉県を破り、代表決定戦へと進んだ。

第二日目の8月17日は、栃木SC宇都宮フィールドで代表決定戦2試合が行われた。

第一試合は地元栃木県対山梨県が対戦した。両チーム無得点のまま延長戦に入り、そこでも0対0で決着がつかず、PK方式へ、栃木県が5対4で勝利し、本大会出場を決めた。

第二試合は埼玉県と千葉県が対戦した。後半終了間際に千葉県が先制し、勝負あったと思われたが、アディショナルタイムに入り埼玉県が2点を連取し、2対1と勝利、劇的な幕切れとなった。

結果、群馬県、神奈川県、千葉県、栃木県の4県が10月に長崎県で開催される第69回国民体育大会に出場を決めた。

2日間とも、大きな問題もなく無事に運営することができた。加えて本県チームが頑張りをを見せて、5年ぶりの代表権を勝ち取ったことで、大いにもり上がった。

最後に、関係各位に感謝申し上げ報告としたいと思います。

## 第69回国民体育大会関東ブロック サッカー競技成年女子大会運営を終えて

女子連盟委員長 井上 知佐子

私にとっては2回目の関ブロ運営です。

8年前は県総合運動公園サッカー場天然芝2面で行い雷にみまわれました。

PCの雨雲レーダーを見ながらの大会運営。他県からは「雷が鳴っているのにやめないのか」などの声も聞かれましたが、雷も遠のき無事に2日間の大会運営が終わりました。

この頃は正式な医事の派遣もなく連盟の看護師が対応していたように記憶しています。大会はいつも8月の猛暑の中で行われるため、補助員初め役員の体調が心配されます。十分な飲み物の準備や参加選手が気持ちよく試合ができるための準備に気を使います。

今年度の大会は会場設営が業者に委託され、宿泊も旅行会社が入り運営は各連盟でと割り振られ準備がすすめられてきました。

又、医事、雷探知機、温度計なども準備され、安全への配慮がされていました。

関東の役員の宿泊を手配していただけたことは大変助かりました。（他県ではありません。）

青木のグラウンドは天然芝が2面での運営でしたが、会場受付の設置場所が悪く、入り口に近いグ

ラウンド関係者は受付の存在に気付かなかった方も多くいました。

受付テントも雑草の上に張られていて、当日は露に濡れた雑草のうえで受け付けをすることになり、蚊にさされました。

やはり、会場準備には立会が必要でした。（それも、わかる人が・・・と、反省です。）

又、青木にはシャワーの設備初めクラブハウスがないのでテントでの対応となり、今後、設備の充実がのぞまれます。

具体的な反省としては、自分たちで準備をしていないので、何がどこに入っているのかわからなかったり、物品の数が足りなかったり、（ゴミ袋や、雑巾など）

大変でも協会での準備には連盟の者も立会い、一緒に準備したかったです。

今年度は、気温が思っていたより低く飲み物が足りていましたが、通年の気温だとどうだったのか？氷はすぐに溶けてしまいました。

運営役員の人数や補助役員の人数は適当であったと思われる。

運営全体でも大きな問題はありませんでしたが、すべてわかっている星野先生がとても忙しく動いていたのが気になりました。事務局長の仕事量を緩和するために、せめて委員長、実行委員長はあと何回か委員会を開き打ち合わせが必要でした。

試合運営では大きな問題はなく進みましたが、試合に出したイエローカードの件で審判からの申し立てが有り専務理事初め多くの方が夜中まで忙しく対応されました。

今回の関ブロは県協会の皆さんが本当に忙しく、大変だったと思います。お疲れ様でした。

女子連盟はいつもの関東大会に比べるととても楽に運営させていただきました。

あと、お弁当の数が多すぎたように思いました。1日目に比べ2日目は関東の役員も少ない気がしました。

今回の大会においてマッチコミッショナーや記録で他の連盟の方に大変お世話になりました。

ありがとうございました。

## Jリーグ百年構想クラブの 承認を受けて

株式会社 栃木ウーヴァ  
広報 古川雅士

日頃から、栃木県サッカー協会ははじめ皆様には当クラブの活動に対し、深いご理解とご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。

今シーズンは、多田監督の2年目を迎えると共に、選手を大幅に入れ替え、昨年まで選手としてウーヴァFCで活動し、地域リーグ時代・JFL昇格・そして昨年まで苦楽を共にした前田和也をコーチに昇格させました。今シーズンは2ステージ制導入で開幕戦こそ勝利したものの、1stステージは、11位と不本意な成績となってしまいました。2ndステージ初戦で1stステージ優勝のHonda FCに勝利し第6節終了時点で7位とチームは徐々に上向いてきました。

そして、本年2月、運営母体をNPOから株式会社に移し、また、5月のJリーグ理事会において、Jリーグ百年構想クラブとして承認されました。これもひとえに関係各位のご支援・ご協力の賜であり心より感謝申し上げます。今後、事業規模の拡大、入場者数の増加、地域支援体制の確立など、身の丈に合った経営で地域に密着したクラブでJ3を目指します。また、地域密着の一環として幼稚園を訪問しサッカーの楽しさを教える‘ウーヴァキャラバン’や小学校の授業に講師として参加する‘夢先生’の実施、施設への訪問、街中のイベント等に参加して参りました。

当クラブはJFL参加時から『いつかはJへ』という夢を掲げて、サッカーを通じて地域の子供たちや地域の人々に『夢・希望・感動』を与え、地域に元気と活力をもたらす「ひとづくり」「まちづくり」に貢献することを目指して参りました。そして、私たちの活動は地域の皆様の支えで成り立っています。感謝の気持ちをこめて、選手、コーチングスタッフ、フロントがピッチで表現する、90分間走り続けること「全力宣言」を実践してまいります。

明るい未来を見据えて、地域の皆様と一体となって、“いつかはJへ”の実現を目指します。今後とも熱い応援よろしくお願い致します。

## 栃木県知事杯優勝及び 第19回栃木県サッカー選手権大会を終えて

揚茜クラブ 監督 岩月英治

この度、我々、揚茜クラブは、平成26年3月15日に、石崎忠利栃木県サッカー協会会長をはじめとして、栃木県内外の多くのサッカー関係者の方々にご臨席いただき、創部50周年記念式典を盛大に開催させていただくことができました。これもひとえに50年というチームの歴史に関わっていただいた多くの栃木県内のサッカー関係者の皆様のおかげであると厚く御礼を申し上げます。

記念式典の席上で、参加された来賓やOBの方々から過去の輝かしい栄光と歴史のあるクラブとしてのお話を頂戴し、ここ数年の我がクラブの現状についての危惧、叱咤激励を受け、選手、スタッフ共々、今シーズンの知事杯優勝と1部リーグへの復帰、名門・揚茜クラブ復活を心に強く誓いました。

今シーズンは、昨シーズンの反省を生かし、主将宇賀神敏広、副将赤羽耕一、反保裕介を中心に日々の練習を積み重ね、守備についてのチームとしての約束を確認し、粘り強く守備を行いながら、ボールを保持する時間を増やし、連続性のある攻撃をし、得点することを目指しチーム作りを行ってきました。記念式典の翌週から始まった栃木県知事杯では、第1回戦日産FC戦では4-0で勝利。第2回戦では、昨シーズン1部リーグ覇者の足利御厨UNITEDに開始早々に得点を許し、その後も苦しい戦いを強いられましたが、後半にコーナーキックから石原健士が同点弾を叩き込み、その後、FW戸村圭佑がDFラインを抜け出し、キーパーとの1対1を落ち着いて決め、逆転に成功し、勝利することができました。開始早々に失点しても、気持ちを切らさず、GK大嶋健介を中心として、

チーム全体で粘り強く守備をすることができるようになったこと勝利へつながったと思います。準々決勝では、昨シーズン同じ2部リーグで戦いながらも1部リーグへの昇格を譲ってしまう形となった氏家クラブ。開始4分に田口誠一が得点し、主導権を握りながら試合を進めるものの得点が決まらず、相手に流れがいつてしまう時間がでてきてしまう。チーム全体で声を出し合い、うまくいかない展開にも我慢しながら、粘り強い守備を続け、後半22分にDF末永翔太が追加点を決め、その後は勢いに乗り、後半24分に戸村圭佑が得点を重ねる。しかしながら、ミスを拾われ、ミドルシュートで失点してしまう。後半39分に石原健士、後半44分に戸村圭佑が得点し、5-1で勝利することができた。勝利はしたものの決定機を決めきること、得点差がついても、油断せずに守備を徹底し失点を防ぐことなど課題が残る試合であった。

準決勝は、宇都宮FCとの戦い。この試合は、揚茜クラブを長年支えてきてくれている選手の奥様のお母様のご逝去し、日頃の感謝の気持ちとご冥福を祈るために絶対に勝利することを誓い、強い気持ちで臨んだ試合であった。この試合も相手に主導権を握られることが多く、苦しい展開となったが、粘り強く守備を行い、戦い続けることができた。延長前半に途中出場のMF柿田規寿がミドルシュートを決め、先制すると、延長後半には、相手が得点を取りに前がかりになったところで、FW櫻井洋が追加点を決め、2-0で勝利することができました。

決勝は、昨シーズン知事杯チャンピオンのFC真岡21。揚茜クラブも「決勝まで来たからには、優勝しないと意味がない。」と選手、スタッフ一丸となり、選手、スタッフの家族、OBなど多くの揚茜ファミリーが集まり、関係者が応援に駆けつけて、試合に臨むことができました。

試合の内容は、前半は相手に主導権を握られ、流動的に動く相手選手に対して、しっかりとブロックを作り、体を張って粘り強い守備を繰り返しながら、相手のPK失敗もあり、失点をしないで、試合を展開する。その中でも反撃のチャンスを狙い、

少しずつ流れを引き寄せ、攻撃をすることができるような時間が増えていた。延長前半13分に、途中出場のFW櫻井洋のロングシュートが決まる。延長後半終了間際に、相手FKから抜け出した選手のシュートを一度はじいたもののこぼれ球を押し込まれ、同点となってしまい、PK戦に突入する。9本目をGK細井暁がセーブし、DF荻原将が確実に決め、5年ぶりに知事杯を獲得することができました。

この優勝は多くの方々の応援と選手、スタッフが一つになれたことが勝因であり、チームとして取り組んできたことが実を結んだのではないかと思います。

知事杯を優勝して出場権を獲得した第19回栃木県サッカー選手権大会では、第1回戦で栃木県大学サッカー選手権大会を優勝した白鷗大学と戦うことになる。大会までに、白鷗大学を想定して、チーム強化を図ったものの大学生の運動量とスピードに自由にボールを支配することができず、セカンドボールも拾うことができずに試合を展開していく。好機を作るもののシュートが枠外にはずれてしまう。前半32分に失点をする。何とか粘り強く守備を繰り返そうとするものの後半12分、15分と失点してしまい完敗だった。

この経験を無駄にせず、今シーズンの目標である県1部リーグへの復帰を決めることができるように、そして、名門・揚茜クラブが復活できるように、これからも選手、スタッフ一丸となり、努力していきたいと思います。今後ともよろしくお願ひします。



## 平成26年度春季栃木県自治体職員 サッカー選手権大会優勝及び 第43回全国自治体職員サッカー 選手権大会北関東予選会出場について

栃木県庁蹴球会 監督 鈴木 倫久

自治体職員サッカー選手権大会は、毎年、春と秋の2度行われており、春の県大会優勝チームと準優勝チームの2チームは全国大会北関東予選会に出場することができ、秋の県大会優勝チームは関東大会に出場することができます。

今回、栃木県庁は、初戦の真岡市役所戦に7対0で勝利。北関東予選会出場を懸けた準決勝では、ここ数年勝つことのできなかつた宇都宮市役所に5対2で勝利。優勝を懸けた決勝戦では、日頃からトレーニングマッチ等で切磋琢磨している日光市役所に延長戦の末2対1で勝利することができました。

この優勝により、茨城県鹿嶋市で開催される全国大会北関東予選会の切符を手に入れました。北関東予選会には、茨城県、栃木県、群馬県及び山梨県から各2チームの計8チームが出場し、3位までに入ったチームは全国大会に出場することができます。栃木県庁は、力及ばず、初戦で茨城県代表の水戸市役所に0対3で敗れ、2年ぶりの全国大会出場はなりませんでした。

さて、この自治体職員サッカー選手権大会ですが、読んで字のごとく、各自治体職員でチームが構成される大会となっています。つまり、栃木県庁でいいますと、母体となっている栃木県庁蹴球会で選手登録をせず、他のチームで選手登録している選手も含めて栃木県庁というチームが組まれることになります。まさにそれこそが、この大会の面白みとも言えるかもしれません。

社会人サッカーにおいては、どのチームでも選手登録することができます。よって、自分の力量やモチベーション、練習環境等々から自分にあったチームを選べます。栃木県庁職員も例に漏れず、いろいろなチームの選手がいます。その中から、この大会に出場したいという選手と共に新たなチームを作り上げ、大会に出場しています。

大会に臨むにあたっては、普段のリーグ戦を共に戦っていない、いろいろなチームの選手がいることから、各選手の弱みを最小限に抑えるような戦い方を心がけています。スピード、テクニック、キック力等に長けた選手のプレーを生かすためには、どのように自分が動くべきか、どのようにみんなでボールを動かすべきか。また、サッカーにミスは付きもの、ミスした後は、いかに早く自分が切り替えるか、いかに早くみんなでカバーするか、ということを常に考え、実践することを選手には求めています。

その他、栃木県庁では、昨年から福島県庁との交流戦を行っています。この交流戦は、東日本大震災後の人事交流をきっかけに、仕事だけでなくサッカーでもお互いの交流を図るため、栃木県と福島県で交互に開催しています。また、今年からは選手間の交流をきっかけに、全国大会常連の世田谷区役所との交流戦も行い、強化を図っています。

栃木県庁は今年も全国大会出場を逃し、まだまだ発展途上のチームではありますが、日々精進を重ね、再び栃木県の代表となった暁には、良い結果を残し、栃木県サッカーの発展に寄与していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。



H26.6.13北関東自治体職員サッカー選手権大会in鹿嶋



H26.7.27栃木県庁・世田谷区役所交流戦



## 平成26年度栃木県大学サッカー 選手権大会優勝に際して

白鷗大学サッカー部  
コーチ 吉永 広人

この度、平成26年度 第11回 栃木県大学選手権大会（実施期間：平成26年4月29日より5月6日）において白鷗大学サッカー部が初優勝することができました。

本大会は、過去9回作新学院大学が優勝をし、作新学院大学以外には、宇都宮大学が第2回大会で優勝したのみでした。

白鷗大学は、優勝を目標にチーム一丸となり、今大会に望みました。

準決勝は、過去9回の優勝を誇る作新学院大学との対戦。試合は、白鷗大学が前半14分に先制点を奪います。その後は、一進一退の攻防戦となり、両者決定的な場面を作りますが決めきれず、なかなか試合が動かない中、後半27分に白鷗大学がセットプレーから追加点を奪います。その後は、作新学院大学の猛攻を白鷗大学が凌ぐ形となり、終了間際に1点返されますがそのまま試合終了。2対1で決勝戦に進出を決める事ができました。

決勝戦では、同じく初優勝を目指す足利工業大学との対戦となりました。決勝戦においても一進一退の攻防戦が繰り広げられました。均衡した戦いの中、後半31分に白鷗大学が先制点を奪います。残り10分となり、足利工業大学の猛攻をうけますが、何とか凌ぎきり、1対0で勝利し、白鷗大学は見事初優勝をすることができました。

今大会は、選手達が一戦一戦、最後まで集中し、優勝したいとの執念を見せてくれ、器用さは無いものの直向に戦った部員全員に、本当に感謝致します。またそれを支えてくれたマネージャーおよびご関係者の皆様、監督に感謝申し上げます。

残り栃木県大学サッカーリーグ、新人戦と大会が残っておりますが、優勝を目指し、チーム一丸となり、全力で取り組んで参りますので、応援の程、何卒よろしくお願い致します。



### 1. 高校連盟より

栃高体連サッカー専門部  
委員長（男子）  
小田林 宏至



現在、高校連盟は、63校が  
県高体連に加盟しています。

大会は、県新人大会、県総体兼関東予選、全国総体予選、全国高校サッカー選手権栃木大会に加え、ユースリーグを年間通じて行っています。

ユースリーグは年度を重ねるごとに整備され、現在1～3部制で実施しており、各グループ2回総当たりで試合数も年間18試合が確保されているところです。また、選手たちにより多くの試合出場の機会を与えるため、1校から複数チームの参加も認めており、年々盛り上がりを見せてきています。

今年度は、本県から、関東プリンスリーグおよびプレミアリーグに出場しているチームが無いので、それぞれが昇格を目指し、切磋琢磨しています。

県内大会に目を向けてみると、県総体兼関東大会予選が4月から5月にかけて行われました。

準決勝戦において佐野日大高校が足工大附属高校に、矢板中央高校が宇都宮高校に勝利し、出場権を獲得しました。決勝戦は、佐野日大高校が1対0で矢板中央高校に勝利し、神奈川県で開催された第57回関東高校サッカー大会に出場しました。

佐野日大高校は、関東本大会においても、決勝戦に進出、惜しくも敗れましたが準優勝を獲得しました。

6月に行われた全国高校総体予選においては、ベスト4は県総体兼関東予選と同じ顔ぶれとなり、矢板中央高校と佐野日大高校がそれぞれ勝利し、決勝戦に進みました。決勝は新人大会以来、3大会同じ

# 関東大会に参加して

佐野日本大学高校サッカー部 コーチ 齋藤琢磨

プリンスリーグ関東に参戦していたこともあり、関東高校サッカー大会には6年ぶりの出場となりました。選手・保護者・校内外関係者・スタッフの力を合わせ、厳しい栃木県予選を5試合勝ち抜き本大会に進むことができました。本大会は、30度を超える猛暑の中、決勝まで3連戦という過酷な状況でしたが、登録選手はもちろん、メンバー外の全部員の頑張りと支えてくださる関係者の御尽力をいただき、関東で準優勝という結果を残すことができました。今後も、チームの強化、そして県全体のレベルアップに貢献できるよう頑張っていきたいと思います。今大会を含め、お世話になっている関係者の皆様に感謝し、厚く御礼申し上げます。

カードとなりましたが、2対1で矢板中央高校が雪辱を果たし、インターハイ出場を決めました。

また、10月に開催される全国高校サッカー選手権栃木大会の出場校が、推薦出場の8校と、8月に行われた1次予選を勝ち抜いた16校の計24校が出揃いました。

さらに、国体少年男子チームが、激戦の関東ブロックを2試合連続の延長・PK方式を制して勝ち上がりました。同チームは、10月に長崎県で行われる国民体育大会に出場することが決まりました。健闘を祈ります。

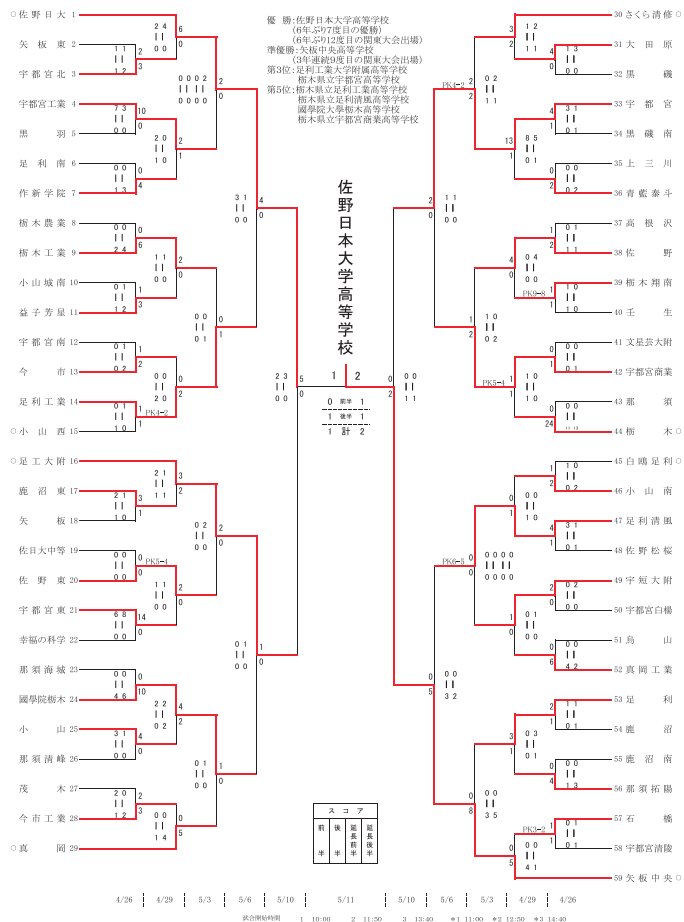
現在、各校とも各大会に向けて日々練習に励んでいるところです。県内で切磋琢磨し、上位大会で活躍できるよう、栃木県の高校のレベルアップを図り、日本を代表するような選手が育つようにしていきたいと考えています。

## 2. 各大会県予選結果（男子）

### ① 関東大会県予選会

#### 佐野日本大学高校（6年ぶり12度目） 関東大会出場

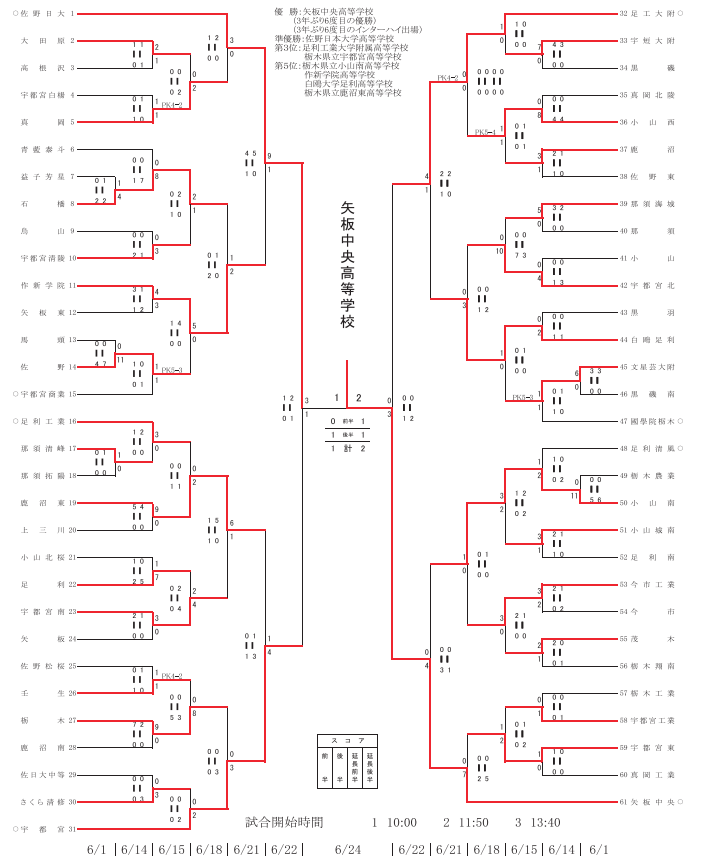
平成26年度栃木県高等学校総合体育大会サッカー大会  
兼 第57回関東高校サッカー大会県予選会 結果  
平成26年4月26-29日 5月3-6・10-11日



### ② インターハイ県予選会

#### 矢板中央高校（3年ぶり6度目） インターハイ出場

平成26年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技県予選会 結果  
平成26年6月1・14・15・18・21・22・24日



③選手権大会一次予選会

選手権大会栃木大会出場校24チーム決定!

(インターハイベスト8+一次予選会通過16チーム)

・推薦出場8チーム(インターハイベスト8)  
 矢板中央、佐野日大、足工大附属  
 宇都宮、小山南、作新学院  
 白鷗足利、鹿沼東

・一次予選通過16チーム  
 黒磯南、佐野東、宇都宮白楊  
 鹿沼、宇短大附、足利工業  
 真岡、益子芳星、宇都宮東  
 矢板、真岡工業、さくら清修  
 小山西、宇都宮南、青藍泰斗  
 栃木工業

3. 平成26年度栃木県高校サッカー関係行事日程(予定)

- (1) 4月5日～  
高円宮杯U-18サッカーリーグ2014  
ユースリーグ栃木
- (2) 4月26日～  
関東大会県予選会
- (3) 6月1日～  
栃木トヨタカップ
- (4) 6月7日～  
インターハイ県予選会
- (5) 8月9日～  
選手権大会栃木大会一次予選会
- (6) 10月18日～  
選手権大会栃木大会
- (7) 1月17日～  
県新人サッカー大会

平成26年度 第93回 全国高校サッカー選手権大会栃木大会一次予選会 結果  
 平成26年8月8・11日

試合時間	1 10:00	2 11:50	3 13:40
黒磯南 1	1 0 0 1	2	2 益子芳星
小山北桜 2	1 0	1	26 大田原
壬生 3	1 1	6	27 足利清風
石橋 4	0 0	0	28 那須拓陽
小山城南 5	0 0	0	29 高根沢
宇都宮白楊 6	1 1	8	30 宇都宮東
佐野東 7	1 2	3	31 栃木
今市工業 8	1 2	3	32 さくら清修
宇都宮工業 9	0 1	1	33 栃木農業
宇都宮清陵 10	0 1	1	34 真岡工業
宇短大附 11	2 2	4	35 栃木翔南
宇都宮商業 12	0 0	0	36 國學院栃木
佐野松桜 13	0 1	1	37 宇都宮南
鹿沼 14	1 1	2	38 鳥山
黒磯 15	0 0	0	39 上三川
佐日大中等 16	1 1	2	40 今市
矢板東 17	0 0	0	41 小山西
足利工業 18	1 1	3	42 宇都宮北
栃木工業 19	2 5	7	43 馬頭
真岡北陵 20	2 3	5	44 足利
那須海城 21	1 1	0	45 矢板
鹿沼南 22	0 4	4	46 茂木
真岡 23	0 0	0	47 黒羽
文星芸大附 24	0 0	0	48 青藍泰斗
			49 小山西
			50 那須清峰

関東大会に参加して

日光市立今市中学校サッカー部  
 主将 吉野太雅

僕たち今市中学校サッカー部は、一つの目標だった関東大会出場を目指し、日々全力で練習に励んできました。その結果、見事県大会で優勝し、一番目の目標を達成できました。関東大会出場が決まった瞬間から、二番目の目標＝関東大会で2勝し全国大会出場に切り替えて練習に臨みました。

関東大会は、8月7日から山梨県で開催されました。強豪チームばかりの中、第一回戦は埼玉県尾間木中と戦いました。序盤、今市中が積極的にリズムのよいパスを回したり、ドリブル突破をはかったりしながらペースをつかんでいきました。11本のシュートを放つも得点に至らず前半が終了しました。後半は一進一退の攻防の中、やや運動量が落ちた所をつかれ失点をしてしまいました。必死で攻めるも逆に2点を奪われ、0対3で敗れてしまいました。

長いホイッスルのあと、悔しくて涙が止まらず、

立ち上がることもできませんでした。勝負の世界の厳しさを実感させられました。しかし、この関東大会に参加して、これからの自分のサッカー人生の土台が築け、よい経験ができたと思います。

成長させてくれると思います。応援してくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに今よりもさらにチームがレベルアップするよう選手と共に努力していきたいと思います。



## 関東大会を終えて・・・

西那須野中学校 サッカ一部  
顧問 鈴木 泰之



西那須野中学校サッカー部は、関東大会出場という目標を掲げ毎日精一杯努力してきました。私たちの地区では44年ぶりの関東大会出場ということで各チームの思いを背負い初戦から全力で戦おうと選手全員が誓いました。関東大会では、立ち上がりペースをつかめず3失点してしまい1点は取り返したものの追いつけず試合が終了しました。関東大会では、最高の試合をしましたが、勝ちきれず悔しさを涙がこぼれました。3年生の姿を見て新チームは、全国大会出場というさらに大きな目標を立て努力しています。多くの経験が選手を

## 第4種委員会

### ◇高瀬利明委員長あいさつ



4種委員会委員長の高瀬です。

日ごろから、県協会関係者様、チーム関係者様そして保護者の皆様には、大変お世話になっております。

さて、今年度から、地域リーグ戦がスタートいたしました。これは、日本サッカー協会の意図するところでもあります。リーグ戦文化を育む目的は、子どもたちに多くの試合を経験させたいという点と、一度対戦した相手ともう一度対戦することで、トレーニングを生かすという点があります。トーナメント方式では、目の前の試合をがむしゃらに戦い、勝利を得ることに重きが置かれがちです。勝利を目指すことは当然のことですが、勝ち負けを検証することがより重要であり、子どもたちの伸び代がみえるところでもあるのです。したがって、一度対戦した相手との試合を検証し、足りない部分をトレーニングして二度目の試合に臨む。といったリーグ戦文化が積み重なることで選手のレベルも指導者のレベルも上がると考えているのです。

今後とも「プレーヤーズ・ファースト」の精神を忘れず、4種委員会の活動を充実させていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

## 第38回全日本少年サッカー大会 栃木県大会

6月8・14・15日の3日間、大田原市の美原運動公園陸上競技場などで、全国大会への切符をかけて熱戦が繰り広げられました。荒天のため1日延期しましたが、北那須地区のスタッフの皆様の支えもあり、無事に三日間の大会を終了することができました。

大会前には「ボールへの集い」としてイベントが行われました。学年別のリフティング大会を行い、観客も大いに盛り上がりました。



<リフティング大会で記念品をゲット>

大会で決勝に進出したのは、前年度優勝の栃木SCジュニアと宇河地区のともぞうSCでした。1点を争う好ゲームとなりましたが、後半に2点を取って大逆転した栃木SCジュニアが三連覇を飾りました。



<堂々の選手宣誓>



<優勝 栃木SCジュニア>



<リフティング大会>



<準優勝 ともぞうSC>



<第3位 FC栃木ジュニア>



## 第4回北関東U-12サッカー大会

8月16・17日群馬県にて第4回の北関東大会が開催されました。本県からは、大谷北FC、ヴェルフェU-12、HFCZERO、細谷サッカークラブが参加しました。

1位パートで大谷北FCが見事準優勝、ヴェルフェU-12が第三位に入賞しました。HFCZERO、細谷サッカークラブも2位パートで健闘しました。



<第3位 御厨FC>

## 第38回全日本少年サッカー大会

8月3日から8月9日にかけて、静岡県で行われました。本県代表栃木SCジュニアは1次ラウンドで1分け2敗と健闘しましたが、決勝トーナメントへの進出はなりませんでした。



## 第38回関東少年サッカー大会

8月23・24日、東京都にて大会が行われました。栃木県からは、ともぞうSC、FC栃木ジュニア、御厨FCの3チームが参加しました。栃木県勢は3チームとも予選リーグで健闘しましたが、3位パートに進出することになり、他県のレベルの高さを痛感しました。



## 第36回東関東少年サッカー大会

8月17日、茨城県にて大会が行われました。本県からは6年生の部に上都賀トレセンと芳賀トレセン。5年生の部に両毛トレセン、下都賀トレセン、4年生の部に宇河トレセン、塩南トレセン。今年から新設された女子の部に北那須トレセン、栃木県トレセンが参加しました。栃木県勢では下都賀トレセンが優勝。上都賀トレセンと宇河トレセンが準優勝でした。







# 第9回関東シニア選手権大会 (Over60) 日程表・対戦成績表

\* 20分-10分-20分 2013.8.3

日程 (曜日)	試合 No.	会場	試合開始 時間	対 戦 相 手						備 考	
8月2日 (土)	1	陸上競技場	10:00	千葉四十雀SC (千葉県)	0	0	VS	0	1	栃木大昭サッカークラブ (栃木県)	
	2	補助陸上	10:00	FCマジョール (東京都)	4	2	VS	0	0	甲斐市シニアサッカークラブ (山梨県)	
	3	陸上競技場	11:00	水戸シニアFC (茨城県)	0	0	VS	0	0	埼玉シニア60 (埼玉県)	
	4	補助陸上	11:00	FC丹沢 (神奈川県)	0	0	VS	0	0	群馬FC60西毛 (群馬県)	
	5	陸上競技場	13:00	千葉四十雀SC (千葉)	1	0	VS	0	0	水戸シニアFC (茨城県)	
	6	補助陸上	13:00	FCマジョール (東京都)	4	2	VS	0	0	FC丹沢 (神奈川県)	
	7	陸上競技場	14:00	栃木大昭サッカークラブ (栃木県)	0	0	VS	0	0	埼玉シニア60 (埼玉県)	
	8	補助陸上	14:00	甲斐市シニアサッカークラブ (山梨県)	0	0	VS	2	4	群馬FC60西毛 (群馬県)	
8月3日 (日)	9	陸上競技場	9:00	千葉四十雀SC (千葉県)	0	0	VS	1	2	埼玉シニア60 (埼玉県)	
	10	補助陸上	9:00	FCマジョール (東京都)	1	0	VS	0	0	群馬FC60西毛 (群馬県)	
	11	陸上競技場	10:00	栃木大昭サッカークラブ (栃木県)	0	0	VS	0	0	水戸シニアFC (茨城県)	
	12	補助陸上	10:00	甲斐市シニアサッカークラブ (山梨県)	0	0	VS	0	0	FC丹沢 (神奈川県)	
	13	陸上競技場	11:30	FC丹沢 A組3位	0	0	VS	0	1	千葉四十雀SC B組3位	5・6位決定戦
	14	補助陸上	11:30	甲斐市シニアサッカークラブ A組4位	2	2	VS	0	1	水戸シニアFC B組4位	7・8位決定戦
	15	陸上競技場	12:30	FCマジョール FC	2	2	VS	0	0	埼玉シニア60 B組1位	決勝戦
	16	補助陸上	12:30	群馬FC60西毛 A組2位	0	0	VS	0	1	栃木大昭サッカークラブ B組2位	3・4位決定戦

【Aブロック】 \* 勝-3点、引分け-1点、負-0点

	FCマジョール (東京都)	甲斐市シニアサッカークラブ (山梨県)	FC丹沢 (神奈川県)	群馬FC60西毛 (群馬県)	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失点差	順位
FCマジョール (東京都)		○ 4-0	○ 4-0	○ 1-0	3			9	9		9	1
甲斐市シニアサッカークラブ (山梨県)	● 0-4		△ 0-0	● 0-4	0	1	2	1	0	8	-8	4
FC丹沢 (神奈川県)	● 0-4	△ 0-0		△ 0-0	0	2	1	2	0	4	-4	3
群馬FC60西毛 (群馬県)	● 0-1	○ 4-0	△ 0-0		1	1	1	4	4	1	3	2

【Bブロック】 \* 勝-3点、引分け-1点、負-0点

	千葉四十雀SC (千葉県)	栃木大昭サッカークラブ (栃木県)	水戸シニアFC (茨城県)	埼玉シニア60 (埼玉県)	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失点差	順位
千葉四十雀SC (千葉県)		● 0-1	○ 1-0	● 0-2	1	0	2	3	1	3	-2	3
栃木大昭サッカークラブ (山梨県)	○ 1-0		△ 0-0	△ 0-0	1	2		5	1	0	1	2
水戸シニアFC (神奈川県)	● 0-1	△ 0-0		△ 0-0	0	2	1	2	0	1	-1	4
埼玉シニア60 (群馬県)	○ 2-0	△ 0-0	△ 0-0		1	2		5	2	0	2	1

A組 1位  
FCマジョール

VS

2-0

B組 1位  
埼玉シニア

A組 2位  
群馬FC60西毛

VS

0-1

B組 2位  
栃木大昭サッカークラブ

A組 3位  
FC丹沢

VS

0-1

B組 3位  
千葉40雀SC

A組 4位  
甲斐市シニアサッカークラブ

VS

2-1

B組 4位  
水戸シニアFC

優勝	FCマジョール
準優勝	埼玉シニア60
3位	栃木大昭サッカークラブ
4位	群馬FC60西毛
5位	千葉40雀SC
6位	FC丹沢
7位	甲斐市シニアサッカークラブ
8位	水戸シニアFC

# ねんりんピック栃木2014 サッカー交流会結果表

※10月6日(月)の試合については、台風の影響により試合は中止となりました。

## Aブロック

チーム名	翔南茅ヶ崎FC赤羽根60 (神奈川県)	長崎選抜 (長崎県)	フラッター塚 (塚市)	各務原フェニックスSC (岐阜県)	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 翔南茅ヶ崎FC赤羽根60 (神奈川県)		1△1	0●1	—	1	0	1	1	1	2	-1	4
2 長崎県選抜 (長崎県)	1△1		—	0△0	2	0	2	0	1	1	0	2
3 フラッター塚 (塚市)	1○0	—		0△0	4	1	1	0	1	0	1	1
4 各務原フェニックスSC (岐阜県)	—	0△0	0△0		2	0	2	0	0	0	0	3

## Bブロック

チーム名	岩手60 (岩手県)	栃木大昭おおるり (栃木県)	山口60雀SC (山口県)	大阪府選抜 (大阪府)	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 岩手60 (岩手県)		0●1	2○0	—	3	1	0	1	2	1	1	2
2 栃木大昭おおるり (栃木県)	1○0		—	0●2	3	1	0	1	1	2	-1	3
3 山口60雀SC (山口県)	0●2	—		0●1	0	0	0	2	0	3	-3	4
4 大阪府選抜 (大阪府)	—	2○0	1○0		6	2	0	0	3	0	3	1

## Cブロック

チーム名	奈良蹴翁 (奈良県)	新潟市選抜 (新潟市)	さいたま市選抜 (さいたま市)	熊本県選抜 (熊本県)	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 奈良蹴翁 (奈良県)		1●3	0●3	—	0	0	0	2	1	6	-5	4
2 新潟市選抜 (新潟市)	3○1		—	2○1	6	2	0	0	5	2	3	2
3 さいたま市選抜 (さいたま市)	3○0	—		2○1	6	2	0	0	5	1	4	1
4 熊本県選抜 (熊本県)	—	1●2	1●2		0	0	0	2	2	4	-2	3

## Dブロック

チーム名	島根県選抜 (島根県)	香川シニア60 (香川県)	青森県 (青森県)	東京都シニア60B (東京都)	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 島根県選抜 (島根県)		0●1	0△0	—	1	0	1	1	0	1	-1	3
2 香川シニア60 (香川県)	1○0		—	0△0	4	1	1	0	1	0	1	2
3 青森県 (青森県)	0△0	—		0●3	1	0	1	1	0	3	-3	4
4 東京都シニア60B (東京都)	—	0△0	3○0		4	1	1	0	3	0	3	1

## Eブロック

チーム名	つくば四十雀 (茨城県)	福岡60雀FC (福岡県)	兵庫県シニア選抜 (兵庫県)	60 秋田選抜サッカー (秋田県)	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 つくば四十雀 (茨城県)		0●2	0●7	—	0	0	0	2	0	9	-9	4
2 福岡60雀FC (福岡県)	2○0		—	0△0	4	1	1	0	2	0	2	2
3 兵庫県シニア選抜 (兵庫県)	7○0	—		1●3	3	1	0	1	8	3	5	3
4 60 秋田選抜サッカー (秋田県)	—	0△0	3○1		4	1	1	0	3	1	2	1

## Fブロック

チーム名	沖縄シニアFC (沖縄県)	浜松怪童クラブ (浜松市)	伊達登別四十雀サッカークラブ60 (北海道)	あしがるサッカー富山 (富山県)	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 沖縄シニアFC (沖縄県)		3○0	0●2	—	3	1	0	1	3	3	0	2
2 浜松怪童クラブ (浜松市)	2○0		—	0●3	6	2	0	0	3	0	3	1
3 伊達登別四十雀サッカークラブ60 (北海道)	1●3	—		0△0	1	0	1	1	1	3	-2	4
4 あしがるサッカー富山 (富山県)	—	3○0	0△0		1	0	1	1	0	1	-1	3

Gブロック

チーム名	西条88FC (愛媛県)	和歌山選抜げんきかい (和歌山県)	栃木大昭かもしか (栃木県)	広島県選抜 (広島県)	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 西条88FC (愛媛県)		3 0 0	0 ● 2	—	3	1	0	1	3	2	1	3
2 和歌山選抜げんきかい (和歌山県)	0 ● 3		—	0 ● 3	0	0	0	2	0	6	-6	4
3 栃木大昭かもしか (栃木県)	2 0 0	—		0 △ 0	4	1	1	0	2	0	2	2
4 広島県選抜 (広島県)	—	3 0 0	0 △ 0		4	1	1	0	3	0	3	1

Hブロック

チーム名	静岡市選抜 (静岡市)	相模原シニア60 (相模原市)	ニューウェーブ北九州シニア60 (北九州市)	高知昭和OB会 (高知県)	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 静岡市選抜 (静岡市)		1 0 0	—	—	3	1	0	0	1	0	1	2
2 相模原シニア60 (相模原市)	0 ● 1		—	—	0	0	0	1	0	1	-1	3
3 ニューウェーブ北九州シニア60 (北九州市)	—	—		0 ● 11	0	0	0	1	0	11	-11	4
4 高知昭和OB会 (高知県)	—	—	11 0 0		3	1	0	0	11	0	11	1

Iブロック

チーム名	山梨シニアSC (山梨県)	熊本オールドキッカーズ (熊本市)	大阪市選抜チーム (大阪市)	宮城フェニックスSC (宮城県)	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 山梨シニアSC (山梨県)		2 ● 3	—	—	0	0	0	1	2	3	-1	3
2 熊本オールドキッカーズ (熊本市)	3 0 2		—	—	3	1	0	0	3	2	1	2
3 大阪市選抜チーム (大阪市)	—	—		0 ● 2	0	0	0	1	0	2	-2	4
4 宮城フェニックスSC (宮城県)	—	—	2 0 0		3	1	0	0	2	0	2	1

Jブロック

チーム名	愛知選抜 (愛知県)	AC千葉 (千葉市)	ぐりぶー鹿児島SFC (鹿児島県)	京都府サッカー (京都府)	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 愛知選抜 (愛知県)		0 ● 1	3 0 0	—	3	1	0	1	3	1	2	2
2 AC千葉 (千葉市)	1 0 0		—	1 0 0	6	2	0	0	2	0	2	1
3 ぐりぶー鹿児島SFC (鹿児島県)	0 ● 3	—		0 △ 0	1	0	1	1	0	3	-3	4
4 京都府サッカー (京都府)	—	0 ● 1	0 △ 0		1	0	1	1	0	1	-1	3

Kブロック

チーム名	名古屋市 (名古屋市)	置賜60 (山形県)	東京都シニア60A (東京都)	鳥取県 (鳥取県)	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 名古屋市 (名古屋市)		0 △ 0	1 △ 1	—	2	0	2	0	1	1	0	3
2 置賜60 (山形県)	0 △ 0		—	1 0 0	4	1	1	0	1	0	1	1
3 東京都シニア60A (東京都)	1 △ 1	—		0 ● 1	1	0	1	1	1	2	-1	4
4 鳥取県 (鳥取県)	—	0 ● 1	1 0 0		3	1	0	1	1	1	0	2

Lブロック

チーム名	福岡60雀フットボール倶楽部 (福岡市)	徳島カバロスシニア (徳島県)	仙台市 (仙台市)	埼玉シニア60 (埼玉県)	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 福岡60雀フットボール倶楽部 (福岡市)		0 △ 0	0 ● 1	—	1	0	1	1	0	1	-1	4
2 徳島カバロスシニア (徳島県)	0 △ 0		—	0 △ 0	2	0	2	0	0	0	0	2
3 仙台市 (仙台市)	1 0 0	—		0 △ 0	4	1	1	0	1	0	1	1
4 埼玉シニア60 (埼玉県)	—	0 △ 0	0 △ 0		2	0	2	0	0	0	0	3

Mブロック

チーム名	栃木選抜Over60 (栃木県)	佐賀県シニア選抜 (佐賀県)	滋賀選抜 (滋賀県)	信州惑々SC (長野県)	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 栃木選抜Over60 (栃木県)		3 0 0	—	—	3	1	0	0	3	0	3	2
2 佐賀県シニア選抜 (佐賀県)	0 ● 3		—	—	0	0	0	1	0	3	-3	3
3 滋賀選抜 (滋賀県)	—	—		0 ● 4	0	0	0	1	0	4	-4	4
4 信州惑々SC (長野県)	—	—	4 0 0		3	1	0	0	4	0	4	1

Nブロック

チーム名	新潟選抜 (新潟県)	千葉県シニア (千葉県)	シニア岡山FC (岡山県)	藤枝SC (静岡県)	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 新潟選抜 (新潟県)		0 ● 3	—	—	0	0	0	1	0	3	-3	4
2 千葉県シニア (千葉県)	3 0 0		—	—	3	1	0	0	3	0	3	1
3 シニア岡山FC (岡山県)	—	—		0 ● 1	0	0	0	1	0	1	-1	3
4 藤枝SC (静岡県)	—	—	1 0 0		3	1	0	0	1	0	1	2

Oブロック

チーム名	神戸市シニア選抜 (神戸市)	ゴールドフェニックス福井 (福井県)	群馬FC60 (群馬県)	宮崎ドリリームFC (宮崎県)	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 神戸市シニア選抜 (神戸市)		3 0 1	1 0 0	—	6	2	0	0	4	1	3	1
2 ゴールドフェニックス福井 (福井県)	1 ● 3		—	0 ● 1	0	0	0	2	1	4	-3	4
3 群馬FC60 (群馬県)	0 ● 1	—		5 0 0	3	1	0	1	5	1	4	2
4 宮崎ドリリームFC (宮崎県)	—	1 0 0	0 ● 5		3	1	0	1	1	5	-4	3

Pブロック

チーム名	広島四十雀SC (広島市)	四日市FC (三重県)	福島シニア60 (福島県)	ゆーりん石川 (石川県)	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 広島四十雀SC (広島市)		3 0 0	3 0 1	—	6	2	0	0	6	1	5	1
2 四日市FC (三重県)	0 ● 3		—	0 ● 1	0	0	0	2	0	4	-4	4
3 福島シニア60 (福島県)	1 ● 3	—		2 0 0	3	1	0	1	3	3	0	2
4 ゆーりん石川 (石川県)	—	1 0 0	0 ● 2		3	1	0	1	1	2	-1	3

10月5日(日)

●宇都宮市(栃木県総合運動公園)

時間	栃木県総合運動公園サッカー場A			栃木県総合運動公園サッカー場B			栃木県総合運動公園サッカー場C			栃木県総合運動公園ラグビー場		
9:00~9:45	A1 翔南茅ヶ崎FC赤羽根60 (神奈川県)	A2 長崎県選抜 (長崎県)	A3 フラッター堺 (堺市)	A4 各務原フェニックスSC (岐阜県)	E1 つくば四十雀 (茨城県)	E2 福岡60雀FC (福岡県)	E3 兵庫県シニア選抜 (兵庫県)	E4 60 秋田選抜サッカー (秋田県)				
9:55~10:40	B1 岩手60 (岩手県)	B2 栃木大昭おおり (栃木県)	B3 山口60雀SC (山口県)	B4 大阪府選抜 (大阪府)	F1 沖縄県シニアFC (沖縄県)	F2 浜松怪童クラブ (浜松市)	F3 伊達選抜サッカークラブ60 (北海道)	F4 あしがるサッカー富山 (富山県)				
10:50~11:35	C1 奈良蹴鈴 (奈良県)	C2 新潟市選抜 (新潟市)	C3 さいたま市選抜 (さいたま市)	C4 熊本県選抜 (熊本県)	G1 西条88FC (愛媛県)	G2 和歌山選抜げんきかい (和歌山県)	G3 栃木大昭かもしか (栃木県)	G4 広島県選抜 (広島県)				
11:45~12:30	D1 島根県選抜 (島根県)	D2 香川シニア60 (香川県)	D3 青森県 (青森県)	D4 東京都シニア60B (東京都)	H1 静岡市選抜 (静岡市)	H2 相模原シニア60 (相模原市)	H3 ニューウェーブ北九州シニア60 (北九州)	H4 高知昭和OB会 (高知県)				
12:40~13:25	A1 翔南茅ヶ崎FC赤羽根60 (神奈川県)	A3 フラッター堺 (堺市)	A2 長崎県選抜 (長崎県)	A4 各務原フェニックスSC (岐阜県)	I1 山梨シニアSC (山梨県)	I2 熊本オーレドキッカーズ (熊本市)	I3 大阪市選抜チーム (大阪市)	I4 宮城フェニックスSC (宮城県)				
13:35~14:20	B1 岩手60 (岩手県)	B3 山口60雀SC (山口県)	B2 栃木大昭おおり (栃木県)	B4 大阪府選抜 (大阪府)	E1 つくば四十雀 (茨城県)	E3 兵庫県シニア選抜 (兵庫県)	E2 福岡60雀FC (福岡県)	E4 60 秋田選抜サッカー (秋田県)				
14:30~15:15	C1 奈良蹴鈴 (奈良県)	C3 さいたま市選抜 (さいたま市)	C2 新潟市選抜 (新潟市)	C4 熊本県選抜 (熊本県)	F1 沖縄県シニアFC (沖縄県)	F3 伊達選抜サッカークラブ60 (北海道)	F2 浜松怪童クラブ (浜松市)	F4 あしがるサッカー富山 (富山県)				
15:25~16:10	D1 島根県選抜 (島根県)	D3 青森県 (青森県)	D2 香川シニア60 (香川県)	D4 東京都シニア60B (東京都)	G1 西条88FC (愛媛県)	G3 栃木大昭かもしか (栃木県)	G2 和歌山選抜げんきかい (和歌山県)	G4 広島県選抜 (広島県)				

●宇都宮市（河内総合運動公園）

時間	河内総合運動公園陸上競技場			河内総合運動公園多目的広場			
1 9:00~9:45	J1 愛知選抜 (愛知県)	0 0-1	1	J2 ACちば (千葉県)	J3 ぐりぶー鹿児島SFC (鹿児島県)	0 0-0	J4 京都府サッカー (京都府)
2 9:55~10:40	K1 名古屋市 (名古屋市)	0 0-0	0	K2 置賜60 (山形県)	K3 東京都シニア60A (東京都)	0 0-0	K4 鳥取県シニアSC60 (鳥取県)
3 10:50~11:35	L1 福岡60雀フットボール倶楽部 (福岡市)	0 0-0	0	L2 徳島カバロスシニア (徳島県)	L3 仙台市 (仙台市)	0 0-0	L4 埼玉シニア60 (埼玉県)
4 11:45~12:30	M1 栃木選抜Over60 (栃木県)	3 1-0	0	M2 佐賀県シニア選抜 (佐賀県)	M3 滋賀選抜 (滋賀県)	0 0-3	M4 信州感々SC (長野県)
5 12:40~13:25	N1 新潟選抜 (新潟県)	0 0-2	3	N2 千葉県シニア (千葉県)	N3 シニア岡山FC (岡山県)	0 0-1	N4 藤枝SC (静岡県)
6 13:35~14:20	J1 愛知選抜 (愛知県)	3 2-0	0	J3 ぐりぶー鹿児島SFC (鹿児島県)	J2 ACちば (千葉県)	1 1-0	J4 京都府サッカー (京都府)
7 14:30~15:15	K1 名古屋市 (名古屋市)	1 1-1	1	K3 東京都シニア60A (東京都)	K2 置賜60 (山形県)	1 0-0	K4 鳥取県シニアSC60 (鳥取県)
8 15:25~16:10	L1 福岡60雀フットボール倶楽部 (福岡市)	0 0-1	1	L3 仙台市 (仙台市)	L2 徳島カバロスシニア (徳島県)	0 0-0	L4 埼玉シニア60 (埼玉県)

時間	壬生町総合公園陸上競技場			
1 9:00~9:45	O1 神戸市シニア選抜 (神戸市)	3 3-0	1	O2 ゴールドフェニックス福井 (福井県)
2 9:55~10:40	O3 群馬FC60 (群馬県)	5 2-0	0	O4 宮崎ドリームFC (宮崎県)
3 10:50~11:35	P1 広島四十雀SC (広島市)	3 2-0	0	P2 四日市FC (三重県)
4 11:45~12:30	P3 福島シニア60 (福島県)	2 0-0	0	P4 ゆーりん石川 (石川県)
5 12:40~13:25	O1 神戸市シニア選抜 (神戸市)	1 1-0	0	O3 群馬FC60 (群馬県)
6 13:35~14:20	O2 ゴールドフェニックス福井 (福井県)	0 0-0	1	O4 宮崎ドリームFC (宮崎県)
7 14:30~15:15	P1 広島四十雀SC (広島市)	3 2-1	1	P3 福島シニア60 (福島県)
8 15:25~16:10	P2 四日市FC (三重県)	0 0-1	1	P4 ゆーりん石川 (石川県)

10月6日（月） ※台風の影響により試合は中止となりました。

●宇都宮市（栃木県総合運動公園）

時間	栃木県総合運動公園サッカー場A		栃木県総合運動公園サッカー場B		栃木県総合運動公園サッカー場C		栃木県総合運動公園ラグビー場					
1 9:00~9:45	H1 静岡市選抜 (静岡市)	[ - ]	H3 ニューウェーブ北九州シニア60 (北九州)	H2 相模原シニア60 (相模原市)	[ - ]	H4 高知昭とOB会 (高知県)	M1 栃木選抜Over60 (栃木県)	[ - ]	M3 滋賀選抜 (滋賀県)	M2 佐賀県シニア選抜 (佐賀県)	[ - ]	M4 信州感々SC (長野県)
2 9:55~10:40	I1 山梨シニアSC (山梨県)	[ - ]	I3 大阪府選抜チーム (大阪市)	I2 熊本オールドキッカーズ (熊本市)	[ - ]	I4 宮城フェニックスSC (宮城県)	N1 新潟選抜 (新潟県)	[ - ]	N3 シニア岡山FC (岡山県)	N2 千葉県シニア (千葉県)	[ - ]	N4 藤枝SC (静岡県)
3 10:50~11:35	O1 神戸市シニア選抜 (神戸市)	[ - ]	O4 宮崎ドリームFC (宮崎県)	O2 ゴールドフェニックス福井 (福井県)	[ - ]	O3 群馬FC60 (群馬県)	P1 広島四十雀SC (広島市)	[ - ]	P4 ゆーりん石川 (石川県)	P2 四日市FC (三重県)	[ - ]	P3 福島シニア60 (福島県)
4 11:45~12:30	K1 名古屋市 (名古屋市)	[ - ]	K4 鳥取県シニアSC60 (鳥取県)	K2 置賜60 (山形県)	[ - ]	K3 東京都シニア60B (東京都)	L1 福岡60雀フットボール倶楽部 (福岡市)	[ - ]	L4 埼玉シニア60 (埼玉県)	L2 徳島カバロスシニア (徳島県)	[ - ]	L3 仙台市 (仙台市)
5 12:40~13:25	J1 愛知選抜 (愛知県)	[ - ]	J4 京都府サッカー (京都府)	J2 ACちば (千葉県)	[ - ]	J3 ぐりぶー鹿児島SFC (鹿児島県)	M1 栃木選抜Over60 (栃木県)	[ - ]	M4 信州感々SC (長野県)	M2 佐賀県シニア選抜 (佐賀県)	[ - ]	M3 滋賀選抜 (滋賀県)
6 13:35~14:20	H1 静岡市選抜 (静岡市)	[ - ]	H4 高知昭とOB会 (高知県)	H2 相模原シニア60 (相模原市)	[ - ]	H3 ニューウェーブ北九州シニア60 (北九州)	N1 新潟選抜 (新潟県)	[ - ]	N4 藤枝SC (静岡県)	N2 千葉県シニア (千葉県)	[ - ]	N3 シニア岡山FC (岡山県)
7 14:30~15:15	I1 山梨シニアSC (山梨県)	[ - ]	I4 宮城フェニックスSC (宮城県)	I2 熊本オールドキッカーズ (熊本市)	[ - ]	I3 大阪府選抜チーム (大阪市)	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]

●宇都宮市（河内総合運動公園）

時間	河内総合運動公園陸上競技場			河内総合運動公園多目的広場			
1 9:00~9:45	A1 翔南茅ヶ崎FC赤羽根60 (神奈川県)	[ - ]	[ - ]	A4 各務原フェニックスSC (岐阜県)	A2 長崎県選抜 (長崎県)	[ - ]	A3 フラッター堺 (堺市)
2 9:55~10:40	B1 岩手60 (岩手県)	[ - ]	[ - ]	B4 大阪府選抜 (大阪府)	B2 栃木大昭おおり (栃木県)	[ - ]	B3 山口60雀SC (山口県)
3 10:50~11:35	C1 奈良蹴翁 (奈良県)	[ - ]	[ - ]	C4 熊本県選抜 (熊本県)	C2 新潟市選抜 (新潟市)	[ - ]	C3 さいたま市選抜 (さいたま市)
4 11:45~12:30	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]
5 12:40~13:25	D1 島根県選抜 (島根県)	[ - ]	[ - ]	D4 東京都シニア60B (東京都)	D2 香川シニア60 (香川県)	[ - ]	D3 青森県 (青森県)
6 13:35~14:20	E1 つくば四十雀 (茨城県)	[ - ]	[ - ]	E4 60 秋田選抜サッカー (秋田県)	E2 福岡60雀FC (福岡県)	[ - ]	E3 兵庫県シニア選抜 (兵庫県)

時間	壬生町総合公園陸上競技場			
1 9:00~9:45	F1 沖縄県シニアFC (沖縄県)	[ - ]	[ - ]	F4 あしがるサッカー富山 (富山県)
2 9:55~10:40	F2 浜松陸産クラブ (浜松市)	[ - ]	[ - ]	F3 伊達郡四十雀サッカークラブ60 (北海道)
3 10:50~11:35	G1 西条88FC (愛媛県)	[ - ]	[ - ]	G4 広島県選抜 (広島県)
4 11:45~12:30	G2 和歌山選抜げんきかい (和歌山県)	[ - ]	[ - ]	G3 栃木大昭かもしか (栃木県)
5 12:40~13:25	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]
6 13:35~14:20	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]

## サッカー交流大会組み合わせ

◆リーグ戦 10月5日(日)・6日(月)

ブロック	チーム名 (都道府県・政令指定都市)			
A	湘南茅ヶ崎FC赤羽根60 (神奈川県)	長崎県選抜 (長崎県)	フラッター堺 (堺市)	各務原フェニックスSC (岐阜県)
B	岩手60 (岩手県)	栃木大昭おおるり (栃木県)	山口60雀SC (山口県)	大阪府選抜 (大阪府)
C	奈良蹴翁 (奈良県)	新潟市選抜 (新潟市)	さいたま市選抜 (さいたま市)	熊本県選抜 (熊本県)
D	島根県選抜 (島根県)	香川シニア60 (香川県)	青森県 (青森県)	東京都シニア60B (東京都)
E	つくば四十雀 (茨城県)	福岡60雀FC (福岡県)	兵庫県シニア選抜 (兵庫県)	60 秋田選抜サッカー (秋田県)
F	沖縄県シニアFC (沖縄県)	浜松怪童クラブ (浜松市)	伊達登別四十雀 サッカークラブ60 (北海道)	あしがるサッカー富山 (富山県)
G	西条88FC (愛媛県)	和歌山選抜げんきかい (和歌山県)	栃木大昭かもしか (栃木県)	広島県選抜 (広島県)
H	静岡市選抜 (静岡市)	相模原シニア60 (相模原市)	ニューウェーブ北九州 シニア・60 (北九州市)	高知昭和OB会 (高知県)
I	山梨シニアSC (山梨県)	熊本オールドキッカーズ (熊本市)	大阪市選抜チーム (大阪市)	宮城フェニックスSC (宮城県)
J	愛知選抜 (愛知県)	ACちば (千葉市)	ぐりぶー鹿児島SFC (鹿児島県)	京都府サッカー (京都府)
K	名古屋市 (名古屋市)	置賜60 (山形県)	東京都シニア60A (東京都)	鳥取県シニアSC60 (鳥取県)
L	福岡60雀フットボール倶 楽部 (福岡市)	徳島カバロスシニア (徳島県)	仙台市 (仙台市)	埼玉シニア60 (埼玉県)
M	栃木選抜Over60 (栃木県)	佐賀県シニア選抜 (佐賀県)	滋賀選抜 (滋賀県)	信州感々SC (長野県)
N	新潟選抜 (新潟県)	千葉県シニア (千葉県)	シニア岡山FC (岡山県)	藤枝SC (静岡県)
O	神戸市シニア選抜 (神戸市)	ゴールドフェニックス福井 (福井県)	群馬FC60 (群馬県)	宮崎ドリームFC (宮崎県)
P	広島四十雀SC (広島市)	四日市FC (三重県)	福島シニア60 (福島県)	ゆーりん石川 (石川県)

## 継続することの大切さ ～栗野地区・小山高専の取組み～

キッズ委員会委員長 金井 理

今回は、地域に根ざした2つの地道な取り組みを紹介します。

一例目は、上都賀地区に属する栗野地区。この地区はかつては栗野第一小学校が全国大会で活躍したり多くのプロ選手や栃木を代表するような多くの優秀な選手を排出したりしています。また、筆者と同年代で現在栃木SCで育成部長で活躍されている湯田一弘氏も栗野地区出身の代表的な方です。

そんな栗野地区ですが、年々子ども達の数やサッカーができる地元のチームも減ってきています。地区の指導者の皆さんは、以前のような活気がなくなってしまうのではないかと危惧しているようです。



(中央ブルーのシャツが福田成一氏)

そんな現状を何とかしなければいけないということで立ち上がったのが、現在栗野中学校で指導をしている福田成一氏です。福田氏自身もこの地区出身で、かつては栃木県の国体選手として活躍されました。

福田氏の地元のサッカー環境をもう一度見直し、かつてのようなサッカーで活気のある地区にしたい、サッカーで多くの子ども達の笑顔が見たいという願いを抱き、4年前からキッズ年代からの育成について取り組んでいます。

そんな中、県協会キッズ委員会に声をかけていた

だき、サポートさせていただいています。この取り組みは、毎年8月末の休日に開催され、今年も幼稚園児15組の親子が参加されました。

県協会からは、稲垣氏と私で参加してきました。また、地元栗野中学校サッカー部の中学生も一緒に手伝いに来てくれて短い時間でしたが楽しく体を動かすことができました。

親子で一緒に鬼ごっこをしたり、体のいろいろなところを使ってボールと触れ合ったりしました。また、ミニゴールにシュートをしたり親子でミニゲームをしたりしながら楽しい時間を過ごすことができました。参加してくれた子ども達も保護者の方々も笑顔で会場を後にしていました。

さて、福田氏には今回参加してくれた子ども達、また前回までに参加してくれていた子ども達がその後どうなっているのか検証していただき今後の取り組みにも生かしてほしいと思います。福田氏の頭の中にはいろいろとアイデアが巡っていることと思います。



(親子サッカーの様子)

サッカーを通して地域の活性化をしていこうとしている福田氏のチャレンジや栗野地区の発展を期待したいと思います。

二例目は、下都賀地区に属する小山工業高等専門学校通称小山高専の取り組みです。

小山高専では、今年で六年目を迎え、年二回の公開講座という形で行われています。

サッカーを通して地域貢献をしよう、高専サッカー部を知ってもらおうと、前任の石崎監督が企画しスタートしました。現在もその意思を引き継ぎ監

督の上野哲氏、部長の伊澤悟氏が企画しサッカー一部の学生と一緒に開催しています。

開催当初は、募集の段階で大変苦労されていましたが、地域の回覧や参加した方々の口コミなどで参加者も徐々に増えてきています。対象は幼稚園年中、年長、小学校1、2年生で、親子でサッカーを楽しむことを基本としています。

開催に当たっては、県キッズ委員会と協力し、高専のサッカー部の学生にはキッズリーダー講習会を受講するなどして子ども達を迎える準備もしっかりしています。

この講座に参加する方々は、親子ともどもサッカーをすることが初めてだったり、サッカーを通して親子の触れ合いを楽しみたい、だったり参加の動機や目的は様々です。



(高専の学生と鬼ごっこ)

講師として招かれる県キッズ委員会としても子ども達をどう引き付けるか、飽きさせないようにどんな内容にしたらいいか、いろいろ思案しながら行っています。高専の学生たちも、回を重ねるごとに子ども達との関わり方が上手になっていくのがわかり大変頼もしくなっています。子ども達も保護者の方々も安心して楽しく参加できていると思います。

今回の講座では、親子で鬼ごっこをしたり学生と子どもたちで鬼ごっこをしたりしながら体を温めました。その後ボールを使ってドリブルの練習、大人用のゴールにシュートしたりしました。高専の学生がキーパーになり子供たちもシュートを決めようと真剣でした。最後は子ども対親でのサッカーのゲー



(参加者全員で記念撮影)

ムが行われ大変楽しく過ごすことができました。

閉会式では、子ども達一人一人に修了証が手渡され嬉しそうでした。

公開講座では、毎回参加した保護者にアンケートを実施されていて成果と課題がその場で明確になります。非常に好意的な回答が多く大変ありがたく思います。それを見ながら高専の上野、伊澤両氏たちと我々も喜んだり次に向けて意見を出し合ったりしています。最後には、もうすでに来年度に向けての話をされていました。

我々もまた来るのを楽しみにしたいと思います。

さて、今年度行われた二つの事例を紹介しましたが、この二つの取り組みには共通している素晴らしいことがあります。

一つ目は、やろうとする目的や思いがしっかりしていることです。自分たちの育った地域だったり勤務している地域だったりを何とかしていきたいという思いが非常に熱いことです。

二つ目は、継続しているということです。簡単なようで意外と大変なことです。

しかしながら、「その地域で、その時期にあの場所で毎年行われている行事」ということが間違いなく根付いてきていると思います。そんな地域の方々の思いが彼らを動かしているのではないかと思います。地域に根差した身の丈に合った取り組みであることも継続している大切な要素だと思います。今後もこの二つの地域のサッカーが発展していくことを期待しております。

我々キッズ委員会としても、頑張っている指導



者、地域に協力できていることを嬉しく思います。今後も是非協力していきたいと思ひます。

それぞれの地域でキッズ関連の行事を行いたい要望があれば県キッズ委員会まで連絡をください。いろいろ協力できることがあると思ひます。みなさん、キッズから栃木のサッカーを変えていきましょう。

## 第1回全日本ユース(U-18大会) ラ・ペロタ・サラ関東へ

昨冬、プレ大会が開催された「全日本ユース(U-18)フットサル大会」が、今シーズン、正式に公式戦として始まりました。第1回大会の県予選は5月31日に県北体育館で開催され、ラ・ペロタ・サラ(高根沢)が関東切符を手に入れました。

同大会はU-18世代のフットサルの普及を目的に昨シーズンから始まりました。アンダーカテゴリーのフットサル大会は、小学生世代の「バーモントカップ」、中学生世代の「全日本ユース(U-15)男女大会」に次いでの大会創設となります。前年度はプレ大会開催を受けて、本県でも「第1回U-18フットサル栃木県大会」を実施、レジェンダ栃木が初優勝を飾りました。

今回はそのプレ大会を経ての第1回大会。栃木県予選では、北高根沢中OBが主体のラ・ペロタ・サラと、小山北桜高が激突し、ラ・ペロタ・サラ2戦2勝で優勝の栄冠を勝ち取りました。残念ながら関東大会では初戦敗退となりましたが、本県フットサル界に新たな歴史を刻んでくれました。



▲ラ・ペロタ・サラの選手たち

《メモ》ラ・ペロタ・サラ(La pelota sala)は2012年、北高根沢中(高根沢)の卒業生たちにより結成。県内唯一の高校生世代のフットサル専門チーム。プレ大会の栃木県予選は準優勝。チーム名はスペイン語で「小さいボールを室内で」の意味。フットサルの語源にあたるという。増井雅彦代表、監督は山崎圭則監督、増子義幸、古口利行両コーチがチームを指導し約10人の選手が練習に励んでいる。

## ラズスが10年特別表彰

第2回栃木県フットサルリーグから参戦し、現在も1部リーグで活動するラズスが参戦10年で栃木県フットサル連盟より特別表彰を受けました。

ラズスは2003年に当時の富士アウトソーシング清原支店の派遣社員たちによって結成され、翌04年、第2回栃木県フットサルリーグに「富士アウトソーシングクレインズ」として参戦しました。その後、アイラインクレインズ、クレインズ、ラズスとチーム名を変え、現在は芳賀地区を拠点に活動しています。今シーズンは1部リーグで前期1位というチーム史上最高位で後半戦に折り返しました。代表としてチームを率いる斉藤香子代表に喜びの声をうかがいました。

斉藤香子代表の話 今シーズンのラズスはメンバーたちの気持ちが一つになり、前期をリーグ首位で折り返しました。混戦のリーグでしぶとく勝ち点を積み上げていった結果だと思っています。リーグは後期に入っていきますがこの勢いを維持し、栃木県リーグ初制覇と関東リーグ昇格を狙っていきたくです。



▲ラズスの選手たち

## 本県女子選抜活動中

現在、フットサルの大会には都道府県対抗で争われる男子の「全国選抜大会」と女子の「全国選抜女子大会」があり、本県チームもそれぞれで関東大会へと出場しています。女子は活動7年目、今シーズンも年明けの関東大会に向けて間もなくチーム編成の準備に入ります。

栃木県女子選抜チームは2009年に第1回全国女子選抜大会が開催されるのに合わせ、栃木県女子フットサルリーグに参戦するチームの所属選手から20選手を選出し活動をスタートしました。第1回大会の関東大会は栃木市総合体育館で行われ、そこから栃木県女子選抜チームの歴史がスタートしました。

今年1月には第6回大会が小山市の県南体育館で行われ、アマレーロ峰FCの宮川進監督の下、アマレーロ峰FC、ヴェルフェたかはら那須フェミニノ、宇都宮チェルトFCレディース、ブラジニアフットサルから選抜された選手たちが関東大会へと臨みました。

「フットサルの栃木県代表」を目指してみたい女子選手の方々は、ぜひ栃木県女子フットサルリーグでボールを追って選抜入りをアピールしてみてください。



▲栃木県女子フットサル選抜の選手たち

## 第19回全日本女子ユース(U-15) 栃木SCレディース全国3位

7月26日から8月1日まで大阪府堺市のJ-GREENで行われた「第19回全日本女子ユース(U-15)サッカー選手権大会」で、本県から出場した栃木SCレディースが見事、全国3位を勝ち取りました。昨季はベスト8まで駒を進めた栃木SCレディースですが、今回はそれを上回る好成績となりました。チームは栃木県予選を2位、関東地区予選を5位で通過と厳しい戦いを強いられての全国出場となりましたが、その中で選手たちが着実に成長、1戦ごとにたくましさを増し、この栄冠へとたどり着きました。チームを指揮した若松佑弥監督に大会を振り返ってもらいました。

チームに「昨季はベスト8。今季の目標はその成績を上回るベスト4、もしくはそれ以上」という意識はありましたが、栃木県予選で4連覇できず準優勝に終わり、そこからはい上がっての全国3位でした。

昨季の成績に甘えていた部分もあり、もう一度、「自分たちには何が足りないか」を見つめ直して関東大会に備えました。関東大会に向けて力を入れたのは、FWの中心選手・岩下胡桃(益子中)にボールを入れて攻撃を組み立てること。それを関東大会までの1カ月間、多くの時間を割いて練習を重ねました。



▲栃木SCレディースの選手たち(@TOCHIGI SC)

関東大会は準々決勝で浦和レッズレディース(埼玉)に敗れ順位決定戦に回りました。勢いで勝っていた部分もあったのですが、強豪チームとの対

戦で現実を直視させられた感じでした。しかし順位決定戦で選手たちは緊張することなくプレーし、全国切符を勝ち取りました。

満を持して進んだ全国大会では、岩下や守備的MFの吉間かれん（清原中）らが攻撃の中心となり勝ち進みました。全国大会に出てくるライバルチームは強豪ばかり。プレッシャーも速く、簡単には勝たせてもらえません。その中で選手たちは連係力を高めるなど成長していきました。日テレ・メニーナに敗れた準決勝以外は無失点。DF豊後彩香（若松原中）らを中心とする堅守も光りました。

チームに昨季いっぱい退任した田代久美子前監督が築いた、「球際は激しく」というベースがありました。その「貯金」があったからこそ、監督が変わる中でスムーズに戦えたという部分があります。チームは全国3位の原動力となった中学3年生が抜けて新チームとなります。周囲の支えに感謝しながら、来季も努力に結果が伴う戦いができるよう、引き続き頑張っていきたいです。

《 戦 績 》

■ 1 回戦

栃木SC3-0徳島ラティーシャ(四国1位/徳島)

■ 2 回戦

栃木SC2-0フィールズ・リンダ(北海道1位/北海道)

■ 準々決勝

栃木SC2-0日置シーガルズFC(九州4位/鹿児島)

■ 準決勝

栃木SC0-3日テレ・メニーナ(関東2位/東京)

■ 3 位決定戦

栃木SC1-0アルビレックス新潟(北信越1位/新潟)

**NPO法人・アイデアSCが女子普及事業  
真岡で「なでしこひろば」**

真岡市を拠点に活動2年目を迎えたNPO法人「アイデア・スポーツ・コミュニティ」が今季、女子の普及イベントとなる「なでしこひろば」をスタートさせました。日本サッカー協会の普及施策「なでしこひろば」の認定を受けてのもので県内では初

めての試みです。同法人の代表で、栃木県協会で技術委員長を務める川上栄二氏に目的や現状などをうかがいました。

「アイデア・スポーツ・コミュニティ」を主宰する中で、真岡市在住の井上知佐子女子委員長らと「女子の普及イベントをやってみよう」という話がまとまり、今年4月から「なでしこひろば」を始めました。月1回、真岡工業高のグラウンドを夜間使用し、年齢やサッカー経験に関係なく小学生から社会人、主婦までがボールを追っています。

「なでしこひろば」を始めた当初は20人弱という参加者でしたが、今は30人前後にまで参加者が増えています。「女子サッカーをやりたい」という方は、この芳賀地区でも少なくないはず。引き続きこの事業を発展させつつ、女子サッカーの普及に努めていきたいと思っています。



▲サッカーを楽しむ参加者たち

《メモ》「なでしこひろば」は昨年11月から日本協会主導でスタートした女子サッカー普及事業。年齢を問わず女性が定期的にプレーできる環境を整えようとするもの。日本協会への申請が通れば、「なでしこひろば」の名称を使うことができる。主な条件は「月1回以上の定期的な開催」と「JFA公認D級ライセンス以上の資格を持つ指導者がいること」



## (公社) 栃木県サッカー協会審判委員会

審判委員長 鈴木武明  
(JFA 1級インストラクター)

平成26年3月24日(月)長い間、日本の審判界を支えてきた十河正博氏(元国際審判員)がお亡くなりになりました。私とは同じ職場で働いたり、審判活動をしたり、そもそも審判の世界に誘っていただいたのも十河前委員長でしたので、大変なショックでした。心よりご冥福をお祈りいたします。



十河委員長の後を引き継ぎ、私が委員長に就任することとなりました。至らない点が多いかとは思いますが、栃木県の審判員を支え栃木県のサッカーを発展させていこうと考えていますのでよろしく願います。

委員長交代にともない審判委員会の組織も変わりましたので報告いたします。副委員長にはまとめ役として手塚洋氏、指導・育成部長兼任で佐藤洋氏、総務部長兼任で羽石剛氏、競技部長兼任で菅野仁和氏に就任していただきました。

委員会は、総務部、競技部、指導部、シニア部、クラブユース部、フットサル部、インストラクター部、女子部で構成し、21名の審判委員会メンバーで効率よく運営して行こうと思います。

活動目標は、十河前委員長が掲げたスローガン「THE CHALLENGE TO REFEREE FRIEND'S DREAM(審判仲間の夢への挑戦)」を継続し、

- ①上級審判員(1級、2級)の輩出、3級審判員の育成、4級審判員の増員、底辺拡大。
- ②指導スタッフの強化、指導者(審判インストラクター)の育成。
- ③審判研修会の充実、審判トレセンの実施。
- ④ユース審判員を始めとする若手審判員の発掘、強化。
- ⑤女子審判員の強化、増員。

などがあげられ、課題も山積みです。

しかし、スポーツは選手だけではなく、その試合に関わるすべての人々に「喜び」が感じられるもの

であって欲しい。そのために試合を裁く審判もそこに関われることに喜びを感じて欲しい。そして爽やかな気持ちで試合を終えることができるようなレフリングを目指して欲しい。というRESPECTの精神で栃木県を発展させていきたいと考えています。

皆様方審判員も今まで以上にご協力をお願いいたします。皆さんで栃木県のサッカー界を発展させていきましょう！

## 十河正博さんを偲ぶ

県審判委員会 奥澤 浩

十河さんが亡くなった。2014年3月24日、午後5時、64歳の若さであった。ここ何年か闘病生活を送っていたので、少しは覚悟をしていたのだが。私自身こんなに大きなショックを受けるとは、思ってもみなかった。考えがまとまらず、足が地に着かず、気持ちの整理がつかない日々が続いた。

十河さんとの付き合いは、多分40年以上になるだろう。仙台大学を卒業した熱血教師は、先ず日光高校に赴任した。しかし最初はサッカー部ではなく、アイスホッケー部の顧問であつた。その後は宇都宮南高、宇都宮北高、宇都宮工高、宇都宮白楊高、宇都宮女子高と転任して、教師の傍らサッカー部の監督を務めた。

また熱血教師は、栃木教員、栃木サッカーでも選手として活躍した。ポジションはセンターバックが多かった。私もその10年間は、栃木サッカーの試合を数多く笛を吹いた。社会人大会の準決勝や決勝は、なぜか殆ど私に割当が来た。対戦相手は日立栃木、富士通小山、揚茜クラブ、宇都宮大学などであつた。試合になるとファイト剥き出しで、相手FWの選手目がけて激しくスライディングタックルを見舞う十河選手。私が反則の笛を吹くと必ず「ボールに行っている！」と大声で叫んだ。私も負けずに「足にも行っている」と返した。そんなやり取りが今では懐かしく思い出させる。

監督や選手で活躍しながらも、いつの間にか審判もやり始めていた。当初はお世辞にも上手いとは言えなかった。しかし、ダッシュやスプリントのスピードは圧巻で、試合中左ウイングをアッと言う間に追い越して行った。その頃十河さんは、アドバンテージを適用する時に「アドバン、アドバン」と声を発していたので、周囲の人達は「アドバンの十

河」と呼んでいた。あの頃社会人の大会は、ダブルヘッダーも時々あった。チームが負けた後でも、手を抜かずに走り回って笛を吹いていた様子が目に浮かぶ。

昭和55年の「栃の葉国体」を目指して2級から1級になる頃には、選手と審判の敵対関係から審判の仲間同士となり、色々と話し合う様になった。インターハイに審判で参加する様になって、最初の頃は一日3試合連続で予備審判（現在の第4審判）を務めたので「スタンバイの十河」とも言われていた。

栃の葉国体の前年、1級審判に合格した。地元国体で笛を吹く積もりだったのだろう。しかし、国体成年チームには個性の強い選手が集まっていた。それらをまとめられるのは十河さんしかいないと、自羽の矢が立ち主将に抜擢された。栃の葉国体から新たに採用された「成年の部」で優勝。更に種目別でも総合優勝を飾った。この埼玉との決勝戦。連戦で両足首を捻挫していたが、痛み止めの注射を打って出場した。普通の選手だったら出場は、絶対に無理だった事だろう。

宇都宮北高に赴任すると同時に、国際審判員にも任命された。年末になると宇都宮での高校招待大会「ウインター・フェスティバル」が宇都宮北高でも行われた。高校生の試合の笛を吹きながら、その合間に国際試合などの海外事情を聞くのが、毎年恒例行事であった。まだインターネット等の普及は少なく、十河さんの土産話は大きな楽しみであった。ある時十河さんは、「国際審判になれたのは嬉しいが、監督としてチームを全国大会へ連れて行く方が、はるかに魅力的なのだが」と、ポツリと言った事があった。

この頃だろうか、高価なサウナを購入して自宅に設置したのは。それとある日、時間が取れなかったので帰宅後に、県総合運動公園で夜遅くトレーニングをしていた。上下黒色のウェアだったので不審に思われて、巡回中の警察官に呼び止められた。「宇都宮北高の教諭で国際審判員の十河です」と言っても中々理解してもらえず、非常に困ったと言っていた。

Jリーグ開幕の前年秋に、日本初のプロサッカー大会が開催され、ナビスコカップ決勝主審の荣誉に浴した。その頃、私と審判手当の話になった。十河さんは、「手当の増額より、審判の社会的な地位向上」を望みたいと言っていた。国際審判になってか

らも矯る事なく、忙しい合間を縫って県社会人リーグの試合にも、笛を吹きに来てくれた。ある時、県総合運動公園での試合では、勘違いをして5分早く終了の笛を吹き、周囲から言われて慌てて再開するハプニングもあったが。十河さんはミスをした事もオープンに話してくれた。

1985年11月10日、県総合運動公園陸上競技場での日本リーグ、日産自動車vs日立製作所。試合前の打合せで十河さんが「ダメになったら主審を代わって欲しい」との事。私が「エッ!何で」と尋ねると、先週の校内球技大会の試合で生徒と激突して脳震盪を起こし、まだ頭が痛い。奥さんには、誰かに代わってもらう様に言われていたらしい。それでも試合は何事もなく終了した。この時十河さんも私も、会場には自転車で駆け付けた。

これは多くの人知らないもので、ついでに紹介しておこう。1994年6月8日のJリーグ、横浜マリノスvsガンバ大阪の試合だった。十河さんが主審、私は第4審判である。グリーンスタジアムの審判控室で、「今日の試合はスパイクの中敷にこのプラスチックを使う」と言う。私は「これは滑るから止めた方が良い」と言ったのだが。案の定、後半バックスタンド側のレフェリーサイドで、ダッシュの最中にスパイクが脱げた。十河さんの身長よりも高くスパイクが上がり、一回転して走っている前方に落ちた。そのスパイクを一瞬で履いて、何事もなかった様にレフェリングを続けた。試合前には肩が張っているとの事でマッサージをした。試合前に十河さんが頂いた大きな花束をもらい、自宅までの片道17kmを自転車（片手）で運んだ事は、今でも忘れられない思い出である。天国から「オイ奥澤、あまり余計な事をしゃべるなよ」と言う声が聞こえて来そうだが。

十河さんは何事にも、全力で取り組まないと気が済まない性格であった。我々が少し気を抜いた事をしても機嫌が悪かった。その様な性格だったから、皆に好かれたのだろう。定年退職を翌月に控えた2010年2月11日、十河さんの引退試合が行われた。「審判としての一区切りを付ける事をやろう」と仲間に話したら、誰もが「いいね」と二つ返事で引き受けてくれた。十河さんの人徳以外、何物でもないだろう。

この時十河さんは、最後の赴任校の宇都宮女子高にいた。少し前に新居を県北の那須塩原市に構え

た。異動の希望を出せば、自宅から数キロの大田原女子高への転勤も可能だったろう。しかし、「途中で辞めては宇女高サッカー部の生徒が気の毒だ」と言い、残りの二年間往復100kmの距離を毎日通い続けた。お宅に泊まりに行った時に、その話を聞いて私は思わず「全くバカな教師だな」と言ってしまった。私は、そう言うバカな教師が大好きだったのだが。

昨年2020年のオリンピック東京大会が決定した時には、一観客としてゆっくり試合を見に行こうと言っていたのだが。その前に、何度も私に言っていた事がある。私の最後の試合には、旗は振れないかも知れないが、何としてでもその場に立ち会おうと言っていた。しかし、約束は果たして貰えずに旅立ってしまった。でも必ずや、その時には天国から見てくれる事だろう。

十河さんが病床で、家族に向けて伝えた最期の言葉は、「Jリーグのマッチ・コミッショナー等の定年は65歳。定年までもう少し頑張りがかったなー。」

全力疾走での人生、本当にご苦労様でした。そして、そして、ありがとうございます。十河正博さん、ゆっくりお休み下さい。合掌。

(2014年5月24日・記)



引退試合での十河さん(中央)。教え子の高山さん(左)と相樂さん(右)を従えて。左端は筆者



最後の勤務校となった宇女高のサッカー部員も十河先生に熱い声援を送った

写真はいずれも2010年2月11日、鹿沼自然の森公園サッカー場にて

## 「マッチNO1. ブラジルvsクロアチア」

国際副審 相樂 亨

「ヘイ、ニシムラ。WHY?ペナルティ?」

リオデジャネイロ空港で荷物を待つ我々に絡んできたのはブラジル代表のユニホームを着たクロアチアサポーターだった。

前日の開幕戦で西村雄一氏が吹いたペナルティキックに一言発せずにはいられないといった感じだったが、身の危険を感じるほどでは無かった。さらに別のサポーターグループも我々の後ろにこっそり回り込み、親指を下にして写真を撮ってはしゃいでいた。地元ボランティアの方々も多数いたので、深刻な雰囲気ではなかったが、運の悪いことにその光景を遠くから撮影していたカメラマンがいたので、このことはすぐに記事になるだろうということは容易に想像できた。

案の上、その日の夜には地元コーディネーターが心配そうに「空港では大丈夫だったか。空港で襲われたというニュースが出ていたから心配した。」と声をかけてきてくれた。

このレベルの出来事は国内でも経験はあるし、海外ではもっと危ない状況に遭遇したことも数知れずあるが、即座にニュースになるところがさすが「サッカー王国ブラジル」である。



(キックオフ前。開幕セレモニーをバックに)

開幕戦はサンパウロで行われた。

ブラジル国民及びブラジル代表の感無量の涙と共に大合唱されるアカペラの国歌は、素晴らしい雰囲気を作り出していたが、同時にブラジル代表の動きを固くさせていた。キックオフ直後、ブラジル代表は明らかに浮足立っており、不用意なオウンゴールが大会最初のゴールとなった。

しかしその暗雲を振り払ったのは若きエース、ネイマールのゴールだった。途端にブラジル代表全員の動きが良くなったのは、副審の私でも感じる事ができた。

前半、微妙なスローインをクロアチアボールにした私の所に駆け寄ってきたのは、Jリーグでのプレー経験があるフッキ選手だった。両手を合わせて「オネガイシマス、オナガイシマス」と懇願してきた姿が印象的で、試合中もずっと西村さんに日本語で懇願していたらしい。

ただ、開幕戦直後の報道で「西村主審は試合中、日本語のみで対応していた」という報道があったが、恐らくフッキ選手が日本語で西村さんに懇願していたシーンを見ていたクロアチアの選手が「彼らは日本語で話をしていた」と言うことをマスコミに話したことが大きくなったものと思われる。

話題となったホールディングについては、PKか否かの両方の意見があることは我々も理解しており、反対意見を否定するつもりもない。

ただ、意見が割れた時にどちらかに決断しなければいけないのが審判であり、我々はワールドカップ開幕戦という大きな試合でその役割を任せられ、その決断をした。

大事なことはその重要な試合に日本人が割り当てられたという事実だと思っている。

十河先生を含む先輩たちが築いてくれたFIFAへの信用が今回の開幕戦担当に繋がっていることは間違いなく、これまでの日本サッカー協会の取り組みの正しさが評価され、結果として我々が開幕戦のピッチに立つことができた。



(トレーニング風景)

大会前、我々チーム西村は「何試合当たっても関係ない。当たった試合をいつも通りやってくる。」というターゲットを設定した。もし大会前に「4試合はやりたい。」とか「決勝をやりたい。」というターゲットを設定していたのなら我々のミッションは失敗と言えるが、我々のターゲットはあくまで「当たった試合をいつも通り」だったはずであり、そのミッションは成功した。

欲張りな感情に流されて、1試合しかできなかったということについて自分自身で低い評価をするべきではないと考えている。

あの1試合の重みを経験できたのは世界中で我々だけなのだから。



(オフィシャルディナーでジーコさんと)

## ～平成26年第2回関東女子 審判研修会に参加して～

松枝 里実

今回、平成26年度 第2回関東女子審判研修会に参加させていただくことができました。

ご報告の前に、少しでも私自身を知ってもらえればと思います。

私は高校生の時に高山啓義先生に勧められ、3級を取得しました。

大学時代は選手として活動し、平成25年3月に東京女子体育大学を卒業し、4月に栃木県に帰ってきたことをきっかけに、再び審判活動をスタートしました。

現在では女子・少年・社会人の多くの機会でも活動させてもらっています。

第2回関東女子審判研修会は8月22日から24日の3日間行われました。

研修会の2日目・3日目には、第69回国民体育大

## 栃木県審判トレーニングセンターの概要

栃木県審判委員会指導育成部長 佐藤 洋

### はじめに

JFAは世界のサッカートップ10入りを目指していますが、そのためには全体的な底上げ（ボトムアップ）が必要であると思われます。特に、各地域の若年層のレベルアップは急務であり、より質の高い審判を多く育成・強化することが、日本のサッカーのレベル向上に大きく貢献するものと考えられます。技術と審判の協調が生まれてこそ、世界のトップ10入りという目標が達成できると信じています。

### JFA審判トレセン制度

日本協会では、各年代でのリーグ戦実施に伴い、現在不足している審判員やそれを育てるための質の高いインストラクターを育成するシステムとして、2007年に審判トレーニングセンター（審判トレセン）制度を立ち上げました。

中央審判トレセン、地域審判トレセンでは、地域で活躍できる1級審判員及びインストラクターを育成するために、JFA審判トレセンダイレクター（インストラクター）が直接的に指導を行うことで、質の高い最新情報を大量にかつ迅速に伝達することができます。特に、これまでのようなゲームを通じての審判員への直接的な指導のみではなく、各地域で活動する審判インストラクターに対して、具体的な指導理論や指導技術などを向上させることを目的としています。このように各地域で個々の課題に応じた実践的な指導が行われることは、審判員育成という問題解決のために大きな意義を持つと考えられます。

栃木県内の審判員、インストラクターの中からも毎年、中央審判トレセンや地域審判トレセン（関東審判トレセン）に参加しています。そして、確かな理論と実践力を身につけて大きく成長し、現在も県内や関東地域で活躍する審判員やインストラクターが増えてきました。

会関東ブロック大会での実技研修がありました。私は、3回目の関東研修会の参加でしたが、国民体育大会での研修会の参加は初めてで、「私に出来るのか。」といった不安が大きかったです。また初日に、「国民体育大会は、その地域で選び抜かれた選手で作られるチームで、レベルも高く、歴史のある大会です。」との挨拶を頂き、さらに不安が募りました。しかし、地元開催ということもあり、いつもお世話になっている方々の励ましを受け、試合に臨みました。

大会1日目の割り当ては、副審1本と4審1本で、2日目は副審1本でした。

普段の試合よりも、ハードでタフな試合で、ファウルも激しく、難しいものばかりでした。また経験したことがない事が起こったりと、驚きがいくつもありました。そして私の緊張を高めたのが、観客の数とサポーターの存在・ベンチからの声でした。改めて判定の責任を感じた試合でした。

3日間の研修を無事終わることが出来ました。

今まで経験したことのない事が起きたり、良い経験が出来ました。また、他の都県の研修生との交流が出来、審判活動に対する取り組みや、気持ちを聞くことができました。私自身、勉強・経験と更に成長していかなければいけないと思いました。また、改めていつもお世話になっている方々の温かさを感じました。何もわからず、飛び込んできた私を温かく受け入れ、ご指導頂いてることに感謝しております。男子審判員のみなさんからすると、私の今の環境はすごく良いものです。今の現状に甘えず常にチャレンジしていき、まずは2級昇格を目指して活動していきたいと思えます。





## 栃木県審判トレセンについて

栃木県審判トレセンは、2012年度より、栃木県審判委員会の鈴木武明前指導育成部長（現在は審判委員長）がコーディネーターとなり本格的にスタートしました。2012年度以前にも審判トレセンは審判委員会の指導部が開催していましたが、年間を通して計画的にさらに系統的に、月1回のペースで栃木県審判トレセンが実施できる環境を作り上げた鈴木武明委員長の熱意と手腕は非常に大きいと思います。

昨年度、また今年度途中までの、栃木県審判トレセンの実際の内容について簡単に紹介していこうと思います。

### (1) 参加者

県内に籍をおき実際に活動している審判員または審判インストラクター。級や活動のカテゴリーは問いません。4級審判でも参加できます。スタートした頃は、20人程度の参加者でしたが、現在は毎回30人以上の参加者があります。

### (2) 会場

主に宇都宮市内の会場です。今年度は、新しく移転した栃木県サッカー協会の事務所を借用しています。

### (3) 指導者

- ・鈴木武明委員長
- ・オブザーバーとして、県内現役1級審判員、2級インストラクター、ベテラン審判員、フィットネストレーナー等

### (4) 内容

- ・競技規則テスト及び解説
- ・ビデオクリップディスカッション
- ・競技規則プレゼンテーション
- ・資質向上プレゼンテーション
- ・グループ討議
- ・関東以上の研修会の参加報告及び情報提供
- ・トレーナーによるトレーニングメニューの紹介やけがの予防及びメンテナンスの仕方についての講義
- ・J2栃木SCの観戦研修

さらに、毎年8月には、参加希望を取り真岡カップ（高校生の招待大会）をお借りしての宿泊

による審判実技研修も行っています。

ここに紹介している写真は、熱心に参加しているトレセン参加者の活動の様子です。

### (5) 参加者の感想から

トレセン参加者全員から毎回感想を提出してもらいます。必ずトレセンで学んだ内容について振り返りを行うことで自分の中でどのように変わったか、またはどのように意欲付け、動機付けがなされたかを確認してほしいからです。

主な参加者の感想は、

- ・レベルの高さ、緊張感、どれをとっても申し分のない内容で大変勉強になった。
  - ・ビデオを視聴しての判定基準のすり合わせや意見交換など、全ての内容がプラスとなり後の審判活動につながられた。
  - ・毎回行われた競技規則テストは、競技規則を読み込まなければならないのでよい復習になった。
  - ・年間を通じての開催であったため、学んだことを実践する機会が多々あり、自分に合ったスタイルに取り入れることができた。
  - ・多くの講義やディスカッションを通して自分のレフェリングの癖や足りない部分がみえるようになってきた。
  - ・県内の審判員の底上げになっていくと感じた。
  - ・何よりも定期的に仲間と話す時間が作れるということが最大のメリットだと思う。等々
- 参加者は、それぞれが充実感と満足感を多くの感想に表してくれていました。

### 今後について

一方的に指導する側から与えっ放しのトレセンにするつもりはありません。また、限られた審判員だけのエリートプログラムでもありません。やる気があれば誰でも参加できるトレセンを今後も目指していきます。参加者が増えていくと会場等の問題もありますが、門はいつでも広く開いたトレセンにしていきます。そして、参加者の意見やリクエストに応えた内容を今後も準備していこうと思います。

他県でもここまで組織的に審判トレセンを実施

しているところは少ないと思います。参加している若い審判員達は、僅かずつではありますが着実に力を付けてきているということを実感しています。今後は審判員を指導する立場であるインストラクターの方々の積極的な参加も期待したいと思います。

今後も栃木県審判トレセンを通して、県内はもとより関東地域や全国で活躍するような審判員が育つ環境づくりと人材づくりを続けていきたいと思っています。



## 第69回国民体育大会 関東ブロック大会 サッカー競技開催

第69回長崎国体への出場権をかけ、少年男子が8月16日（土）、17日（日）に本県の栃木SC宇都宮フィールドと鹿沼市サンエコ自然の森総合公園サッカー場で、成年男子が8月24日（土）、25日（日）に栃木県総合運動公園サッカー場と、宇都宮市河内総合運動公園陸上競技場で、女子が同じく8月24日（土）、25日（日）に那須塩原市青木サッカー場で関東ブロック大会が開催され、栃木県チームも本大会出場を目指し、激闘を繰り広げてきた。

### 少年男子

平成26年8月16日、栃木SC宇都宮フィールドにおいて、東京都と対戦した。栃木県は、栃木SCと矢板中央高等学校主体の選抜チームで試合に臨んだ。

栃木の少年男子は、関東U-16リーグの結果からも、関ブロ予選を通過するのは厳しい状態であった。前半から栃木は、守備に重きを置き、あまり前にチャレンジするという意図は見られなかった。U-16リーグ3位の東京は、予想通りボール保持率を高め攻撃を仕掛けてきたが、栃木のしっかりとした守備に阻まれた東京は、シュートまで持っていくことができなかった。22分栃木のMF明本考浩選手が、相手の一瞬の隙を付き、約50mのロングシュートを決め待望の先制点をもぎ取った。その後も守備のバランスを崩さず、東京の攻撃を阻止した。

後半に入り、東京は点を取るために、前半よりも運動量を増やし、鋭い攻撃を仕掛けて来た。栃木はDFの粘りある守備とGKの活躍により1失点に抑え、延長戦に持ち込み耐えしのぎ、1対1のままPK方式へととなった。栃木はPK方式でも冷静さ継続させGKも含め高い個人技を發揮し5対4で競り勝った。

8月17日、代表決定戦では、U-16リーグ2位の強豪山梨県と対戦することとなり、苦戦は予想された。前日、山梨は群馬と互角の試合をしたが、

おしくも0対1で敗戦した。次の試合には絶対に勝てるだろうという気持ちで臨んでいたようにも見えた。前半から山梨のペースで試合は進んだが、栃木は前日の東京戦同様の先日で、しっかりと守備に重きを置き、一人一人が集中して戦っていた。また、相手MF8番の左からの攻撃突破に対して、しっかりと対応してチャンスを与えなかった。

後半も山梨にボールを支配されつつもバランスのとれた集中した守りと、相手のシュートに対してクロスバーにも救われるラッキーな場面もあった。結局延長に持ち込み0対0のままPK方式へとなった。栃木はPK方式でも高い技術を発揮し5対4で山梨を破り、本大会出場を決めた。

栃木は他県に比べて、いろいろな面で劣るが、本大会に出場できた自信と、多くの経験を積むことにより、選手達が成長することと、本大会での活躍も期待できる。

## 女子

東京都は、選手構成は、なでしこチャレンジリーグに所属のスフィーダ世田谷FCの選手に、大学所属の選手が含まれる。

一方、栃木県は、文星女子高校出身の大学所属選手が大半を占めたが、個人の技量には、顕著な差が見られた。前半立ち上がりから、ビルドアップをしながら、栃木県のエリアに高いポジションをとり、基点を作りながら、バイタルエリアをコンビネーションから崩すイメージを持ちながら攻める東京都。両センターバックは、スキルが高く、攻守にわたっての安定感があった。キックの精度が高く、精度の高いビルドアップを可能にしていた。両サイドバックは、ボランチのラインまで高いポジションを取り、サイドエリアをコンビネーションで崩すイメージを持って、攻撃を仕掛けていた。対する栃木県は、ハーフウェイラインまでリトリートし、相手のサイドハーフに入ってから守備を徹底し、パスアンドゴーにも、離れずに食いつき、数的優位を作られずに、数的同数を維持し、時間をかけさせることで、決定的なシーンまでは持ち込ませずに、対応していた。

栃木県は、勝負に徹し、失点しないことを、第一に考えてゲームプランを立て、実践し、思い描く流れではあったが、東京都もコンビネーションからの崩しよりも、ゴール前でのクロスに活路を求め、途中からゴール前へ早めのクロスを入れ始め、戦術変更を試みた。残り5分で、クロスからヘディングで決められ、前半0-1で折り返す。

栃木県は、GKに高さがなく、守備エリアも狭く、クロスを上げられると、決定的なシーンとなってしまうことがたびたび見られていたが、その栃木県の弱点を突いてきた。

後半も、東京都の圧倒的なポゼッションから早めのクロスを徹底し、2点を奪いゲームを決めた。栃木県は、数的優位を作らせず、完全には突破を許さなかったが、後ろにひいて守るために、そこから攻めて得点を奪うことは、大変難しく思えた。前線から奪いに行くことで、リスクが高くなり、持ちこたえられなくなるために、この戦いを徹底したと思われるが、得点を奪うことは、難しいと思われた。

結局、得点を奪われた時点で、勝敗が決まってしまう戦いしか、現在の栃木県のレベルでは選択できないのではと推測出来た。個人の技量の差があることは否めなく、栃木県の基盤の脆弱さがあり、その中で、今回の戦いは、健闘したと思われる。

今後は、基盤の強化が必要であり、県内大学で女子サッカー部を創設したり、県内の企業等で、上位リーグを目指すチームが現れないと、現状の打破はできないと思われる。

## 成年男子

平成26年8月23日、宇都宮市河内総合運動公園陸上競技場において、神奈川県と対戦した。栃木県は、JFL加盟の栃木ウーヴァと関東1部リーグ加盟のヴェルフェたかはら那須主体の選抜チームで臨んだ。

栃木の成年男子は、ここ2年連続で予選を通過して本国体に出場している。選手のほとんどは、高いレベルのリーグでプレーしているので、今回も予選通過の期待は大きかった。

## 栃木県選抜U-15 ブラジル遠征2014

前半は、栃木のペースで試合が進み、21分にウーヴァの齋藤翔太選手がゴールキーパーの隙を衝き、ロングシュートで先制した。その後も栃木の攻撃が続いたが、ビハインドの神奈川は前には出で来なかった。全体的に守備に重点を置き、バランスを崩さず少人数で攻める戦術で臨んでいた。

後半は、前に出で来る栃木に対して、しっかりと守備から速攻を仕掛ける戦術で臨み、9分相手FKからDFとGKの連携ミスから失点を許し、同点にされてしまった。やはりあせりがあったのか、一つ一つのプレーが雑に見えた。シュートまでなかなか辿り着かないゲーム展開であった。23分頃、栃木のビックチャンスがあり、ここで決めれば勝利することができると思った瞬間、相手に阻止され速攻を許してしまい、追加点を奪われてしまった。その後も栃木は攻めに精彩をかき、1対2で敗退してしまった。冷静に見ても勝てない相手ではなかった。



(成年男子)



(少年男子、本戦出場を決め歓喜の瞬間)

8月15日から29日の15日間をかけて、栃木県選抜U-15年代のブラジル遠征を行った。遠征にはU-13~15年代の県トレセン、地区トレセンなどから募った18名が参加。現地の同年代チームとの練習試合を中心に、ブラジルにてサッカー漬けの日々を過ごした。遠征の主な日程は以下の通りである。

- 8月15日 真岡高校集合、成田発 (QR807便)
- 16日 ドーハ経由サンパウロ着、宿舎へ。
- 17~26日 現地にてトレーニング、練習試合、ブラジル全国選手権観戦等
- 28日 サンパウロ発 (QR772便)
- 29日 ドーハ経由成田着、真岡高校へ移動、着後解散。

宿舎はサンパウロ州イトゥー市郊外にあるCentro Esportivo Pe de Moleque (セントロ・エスポルティヴォ ペ・ジ・モレーキ) に宿泊。部屋を出るとすぐ目の前にサッカー場やフットサルコートが広がる最高の環境で、約2週間を過ごす事となった。

今遠征中におけるトレーニングや練習試合には、ブラジルは元よりドイツや韓国で活躍し、日本でもプレーした経験を持つアデマール氏が監督として帯同し、選手達に対して指導を行った。トレーニングの内容は日本でも知られているような基礎的な内容のものが多く、ブラジル人の正確な技術は日々の地道かつ高い集中力のもとで行われる基礎トレーニングによって裏付けされているという事を強く感じさせられた。

また、遠征中にはマリーニョ氏 (Pe de Moleque オーナー) の尽力により多くの練習試合を組んで頂いた。その対戦相手には、サントス、パルメイラス、コリンチャンスといったサンパウロ州のみならずブラジルを代表するビッグクラブなども含まれており、選手達は身をもってブラジルのトップレベルを感じる事のできる貴重な機会を得る事が出来た。

特にサントス、コリンチャンスの両クラブは、一つ下のカテゴリー（対戦したのはU-14）の選手達でありながら、高い身体能力と正確な技術、卓越したコンビネーションなどは栃木選抜（以下栃木）のそれをはるかに凌駕しており、試合の9割以上の時間帯を自陣に押し込まれるという日本ではあまり経験する事ができないような試合展開となってしまった。

こういった強豪を相手にしたとき、栃木の選手達はパスを繋ぐ事がほとんどできず、自陣から苦し紛れにロングボールを放り込むだけのサッカーになってしまっていた。「相手の素早く激しいプレスにもしっかりとボールを守る事ができ、顔を上げて正確な判断をし、適切なプレーを瞬時に選択できる選手が一人でも多くいれば、もっと良い試合ができた」というのは、監督を務めたアデマール氏の言葉である。また、時間が経つにつれてDFラインからFWまでの距離間が空いてしまい、FWにパスが入った際のサポートが遅れてしまった事も、栃木の攻撃が強豪相手に機能しなかった要因だと考えられる。こういった点は、今回の遠征に参加した選手達に限らず、県内全体の課題として改善に取り組み、今後、公式戦や国体の関東ブロック予選等で他県の強豪チームと顔を合わせたときにぜひ活かしてもらいたい。

生活面では、日本ではあまりないナイフとフォークを使っての食事や手洗いで洗濯、言葉の通じない環境でのショッピングなど、様々な経験を積む事ができた。サントスFCやイトゥアーノFCの試合を観戦し、本場のサッカーを肌で感じる事もできた。このように、今回の遠征はサッカーのトレーニングや試合は勿論だが、生活面においても非常に内容の充実したものであったといえる。これも今回コーディネイト役として現地スタッフとの仲介役となってくださった土井エジソン氏、ヴェルディ小山SSの石田氏、そして幅広い人脈により通常ではあり得ないような強豪とのマッチメイクや、観戦チケットの手配等をしてくださったマリーニョ氏の尽力によるものである。この場を借りて、心より御礼申し上げたい。

最後に、今回感じた課題を一つ挙げさせて頂き

最後に、今回感じた課題を一つ挙げさせて頂きたいと思う。今回の引率は、高体連から3名、クラブから1名の計4名での引率となった。しかし、参加選手の多くは中体連所属の選手達であり、スタッフに中体連の指導者の方が一人もいなかった点は、選手達の人間性や発達段階を理解し、選手との信頼関係を構築する上で大変大きな問題となった。次回、同様の遠征を行う場合には、中体連の指導者の方々にも積極的に関わって頂き、この素晴らしい経験を共有して頂きたいと心から思う。また、その他多くのカテゴリーの指導者にもしっかりとアナウンスを行い、より多くの指導者が興味を持ち、自身の指導の幅や見聞を広める為に参加できるような、そんな環境づくりを行っていかねばならないと考える。今後の栃木県サッカーの発展の為に、是非とも県全体でこういった貴重な機会を有効に活用して行ければ幸いである。



（コリンチャンスとの練習試合）



（サントスFCホームスタジアムにて）

奥澤 直人  
 石崎 洋子  
 FCグランディール宇都宮  
 檜山 達夫  
 北山 亮  
 野木SSS  
 FC西那須野21アストロ  
 小池 一規  
 (有)スポーツショップ ヤマトヤ  
 小山西高等学校サッカー部  
 東那須野FCフェニックス  
 今市第三カルナヴァル  
 円印刷株式会社  
 安納 明男  
 佐野日大高校サッカー部保護者会

宇都宮北高校サッカー部 OB会  
 栃木県社会人サッカー連盟審判委員会  
 シノザキスポーツ  
 ユー福祉タクシー  
 宇都宮大学サッカー部OB会  
 相樂 亨  
 (株)竹石ビル  
 ウチノ税理士法人  
 滝の原サッカーOB会  
 泉フットボールクラブ宇都宮  
 揚茜クラブ  
 大内中学校サッカー部 協力会  
 鹿沼フットボールクラブOB会  
 星野 みい子



人と自然が調和した街づくり目指す  
**鈴運メンテック株式会社**



- 一般廃棄物の収集運搬
- 産業廃棄物の収集運搬
- 重機・一般貨物の運搬
- 倉庫の賃貸及び保管管理
- 高速道路の維持管理

〒320-0857  
 宇都宮市鶴田2丁目2番10号  
 TEL 028-648-6241(代)  
 FAX 028-648-8318  
<http://www.suzuun.co.jp>

オフィシャルサプライヤー  
**ミズノ株式会社**

- 発行 公益社団法人 栃木県サッカー協会
- 編集 公益社団法人 栃木県サッカー協会 記録広報委員会
- 発行責任者 石崎忠利、村上富士夫
- 印刷所 円印刷株式会社